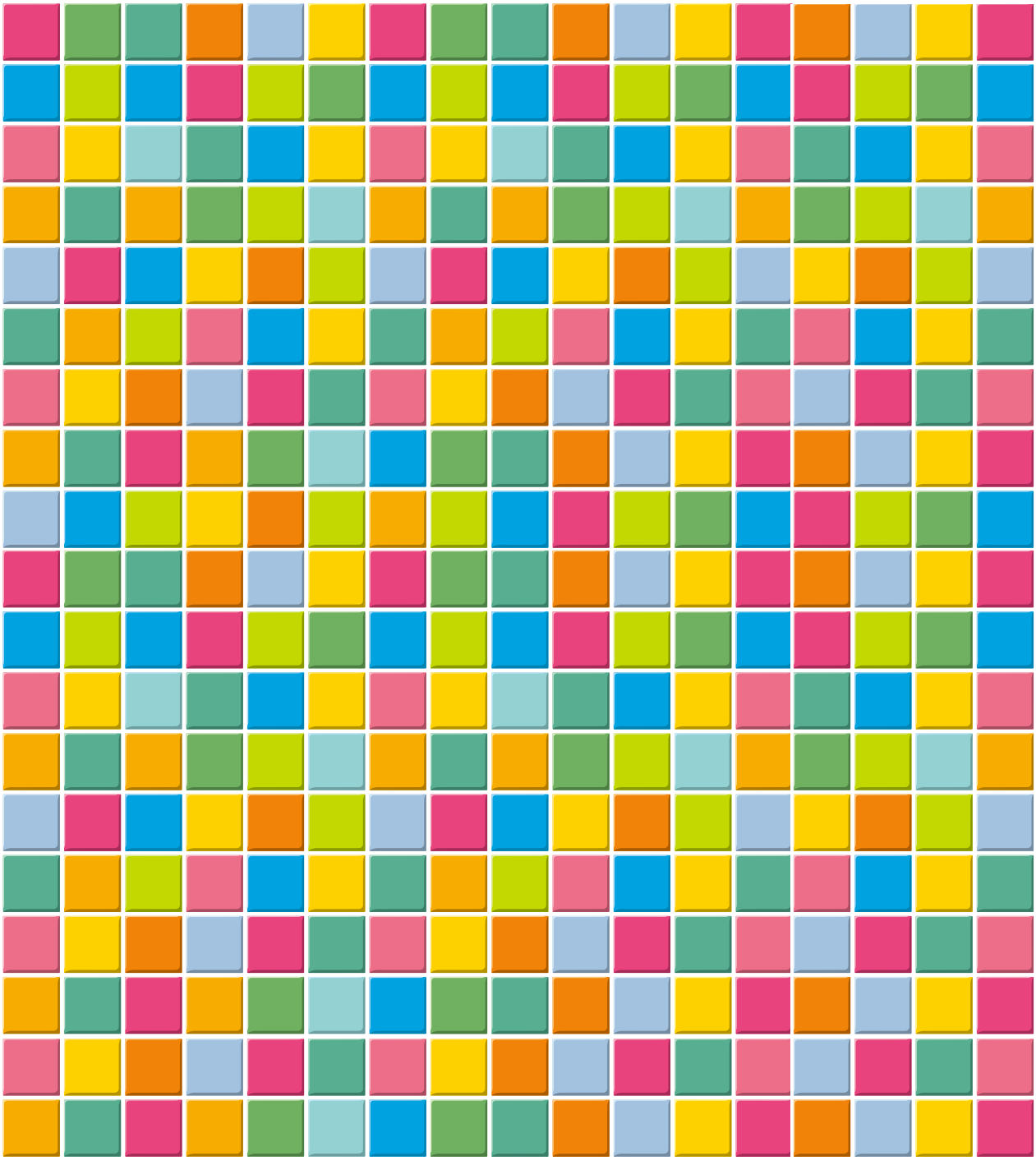
ベップ・アート・マンス 2011

11月は「別府文化月間」。町を歩けばいろんなアートに出会えます。

2011年11月1日〈火〉→30日〈水〉 会場：別府市内各所

主催＝別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会　http://www.beppuartmonth.com

事業報告書 <2012年１月31日版>



要　約

■開催について

別府らしい芸術振興事業の確立に向け、市民全体での「文化創造都市」の実現を目指し開催される「ベップ・アート・マンス」は、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会が主催者となり、11月の１ヶ月間、別府で開催される様々な文化事業を紹介し、開催を支援する登録型のプラットフォーム事業である。今年で２回目となる当事業は、小規模文化団体の育成・支援を目的に広報協力、事務局業務代行、企画立案から実現に向けたサポートを行うことで、市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興と活力あふれる地域の実現を目指す。そして、文化芸術を「見る側」と「作る側」の境界を取り払い、表現者または担い手の一員として参加する事で個々人の持つ創造性を発揮・拡張させることを目的としている。

■開催の成果ならびに課題

２回目の開催となった今回は、昨年度の２倍となる57団体・個人による87プログラムが実施され、総来場者数は昨年度比３倍増の11,751名となった。回収したアンケートから来場者の内訳を見ると、今年度は40代男性と50代女性の来場者が増加した。また、出身地域別では県内の来場者が増加しており、当事業が市民参加型の事業であることを考えると、世代の広がりと県内の来場者の増加は望ましい傾向と考えられる。

有料プログラムへの参加および加盟飲食店や温泉施設などで使用する事ができるクーポン型金券「BP」(１BP＝100円換算)の販売枚数は昨年度比約５倍の2,276冊（１冊６BP綴り）、使用枚数は昨年度比３倍の13,656BPと大幅に増加した。これは、有料プログラム数および「BP」加盟店数が昨年度比４倍以上の増加となった上、当事業の特設インフォメーションブースでのプログラムチケット購入時には必ず「BP」を使用してもらうなど、利用の必然性が増えたことも使用枚数の増加要因であると考えられる。「BP」に対する来場者の評価は「大変良い＋良い」の割合が昨年度の86%から69%に低下し、「良くない」が０%から13%に増加した。これも、昨年度に比べ来場者への「BP」利用を強く推奨したことにより、不満や要望が顕在化したことが要因と思われる。実行委員会事務局(以下、事務局)はこれらの意見も考慮しながら、次回の開催までに「BP」のあり方を検証していきたい。

続いて事務局の取組については、昨年度に引き続き、無料で使用できる会場の提供と、広報業務の一部代行や予約業務の代行に加え、今回は更に民間会場のディスカウント料金の設定や企画構築のサポート、参加団体同士の交流を促進するための交流会や報告会を開催した。また、様々なメディアで取り上げられた当事業の最終的な広告換算は約7,700万円となった。これは、別府市の新たな魅力を広く各地に発信し、地域ブランド力の向上につながる点で「地域再生の視点」でも重要な成果であると考える。事務局業務に対する実施者の評価は、実施者の96%が高い満足度を示し、98%が次回も参加したいという結果となった。一方、課題としては、パンフレット納品遅延のようなスケジュール面の問題、事務局内の役割区分の不明確さ、また、企画構築サポート内容が不明確だったことにより、サポート依頼件数が少なかったことなどが挙げられる。次回の開催までに、今年度までの経験をプログラム応募要項や、運営マニュアル等に反映させ、効率的かつ効果的な事務局運営が必要になる。特に次回は「混浴温泉世界　2012」との同時開催になるため、運営業務の効率化は不可欠であり、準備段階で様々な状況をシミュレーションしながら進めていくことが開催の成否を分けると言え、来年度に向けた運営体制の早期確立が必要になる。

■開催による事業評価

昨年度の各種結果数値をもとに事業実施前に「バランス・スコア・カード」を作成し、設定した成果指標を基準に評価を行った。事業評価は「創造と学習の視点」「マネジメントの視点」「ステークホルダーの視点」「財政の視点」「地域再生の視点」の５つの視点で行われた。「創造と学習の視点」では参加団体・個人数、プログラム数を設定し結果として目標値を約５割上回った。「マネジメントの視点」では満足度の向上が成果指標を上回ったものの、実行委員の出席率が約５割に留まり次回に課題を残した。「ステークホルダーの視点」ではほぼ成果指標通りのボランティア参加人数を達成した。「財政の視点」では成果指標の1.5倍増の設定を大きく超える数値となった。最後に「地域再生の視点」では総来場者数が大幅に成果指標を上回った。ただ、当事業の「別府の地域課題の創造的解決への寄与」という最終目的に照らせば、中長期的には別府における創造的人材の育成・誘致や、会期中に留まらない別府市全体の交流人口の拡大こそが重要なインパクトと言える。この点において短期的な評価は難しいが、来場者アンケートにおいて約半数の来場者が「来年はプログラム実施者として参加したい」と回答しており、彼らが別府の芸術活動や市民活動に参画することで、別府の創造性向上につながると考えられ創造都市実現に向けて好循環が描かれることが期待される。

目　次

第１節　はじめに　・・・・・p.４

第２節　開催概要　・・・・・p.６
（１）　開催趣旨
（２）　開催クレジット
（３）　特設インフォメーションブース

第３節　実施記録　・・・・・p.７
（１）　実施プログラムについて
　1-1　プログラム実施団体・個人一覧
　1-2　プログラム実施スケジュール
　1-3　プログラム実施会場マップ
（２）　各プログラム実施記録
（３）　広告換算
（４）　実施記録から見る成果と課題

第４節　クーポン型金券「BP」の取り組みについて　・・・・・p.43
（１）　「BP」の取り組みについて
（２）　「BP」の成果と課題

第５節　収支実績書　・・・・・p.45

第６節　運営面の検証　・・・・・p.46
（１）　事務局サポートについて
（２）　実施者からの声
（３）　運営面の検証

第７節　来場者について　・・・・・p.55
（１）　来場者アンケートの集計
（２）　集計結果からの検証

第８節　開催による事業評価　・・・・・p.60
（１）　事業評価の仕方について
（２）　事業評価について

第９節　次年度へ向けて　・・・・・p.66

第１節　はじめに

温泉観光都市として世界的にも高名な大分県別府市は、近年、数多くの芸術振興事業が実施され、文化芸術の町としても知られるようになっている。 1998年から開催している「別府アルゲリッチ音楽祭」や2001年から始まった「ハットウ・オンパク」(別府八湯温泉博覧会)等に代表される文化芸術振興の取り組みは、1990年代以降より盛んになり、温泉地再生に向けて実施されてきた。

また、本事業の事務局を担うNPO法人 BEPPU PROJECT(以下、BEPPU PROJECT)は2005年発足以降、地域や全国のまちづくり団体やアート団体と協同し、地域での様々な文化芸術事業の開催、国際創造都市シンポジウムの開催、別府市中心市街地の空き店舗をリノベーションし、文化施設としてコンバージョンを行なうplatform制作事業や、大分県初の複合型国際芸術祭である別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」(以下『混浴温泉世界 2009』)を中核組織として開催するなど、現代アートを軸に芸術振興事業に取り組んでいる。

これらの試みによって別府市は、平成21年度の文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞した。



図1　別府市における「観光地型・文化芸術創造都市」の歩み
(「平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業」提出資料より)

当事業「ベップ・アート・マンス」は、昨年度から開催し、今年は２回目の開催であった。昨年度開催の「ベップ・アート・マンス 2010」は、2009年に開催した「混浴温泉世界 2009」を通じて提起された課題、すなわち、より多くの市民が参加しやすい仕組みを作り、間口の広い地域活性化事業を図るために、多様な主催者が参画するプラットフォーム型アートイベントとして企画・実施した。その結果、県内外の27団体・個人による43プログラムが実施され、また来場者の割合も「混浴温泉世界 2009」の時に少なかった市内からの来場者が最も多く、年齢層でも50代以上の来場者が増加した事から、一定の成果が見えたと言えるだろう。

しかし、プログラム実施者(以下、実施者)からは、事務局の対応への意見や、広報面に対する意見など、厳しい意見もあった。また、来場者からはプログラムの質に関する意見もあった。

これらの課題を解決するため、プログラムを登録した団体・個人への企画構築のサポートや、広報面の強化、また、より多くの市民がプログラムを実施しやすくなるよう、新たに民間の会場をディスカウント料金で提供するサポートも行なった。

「ベップ・アート・マンス 2011」は、今年度の当実行委員会主催の事業の中で、中核的な位置にある事業である。また、来年度に開催する別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」 (以下『混浴温泉世界 2012』) は、「ベップ・アート・マンス 2012」と同時期での開催となる。

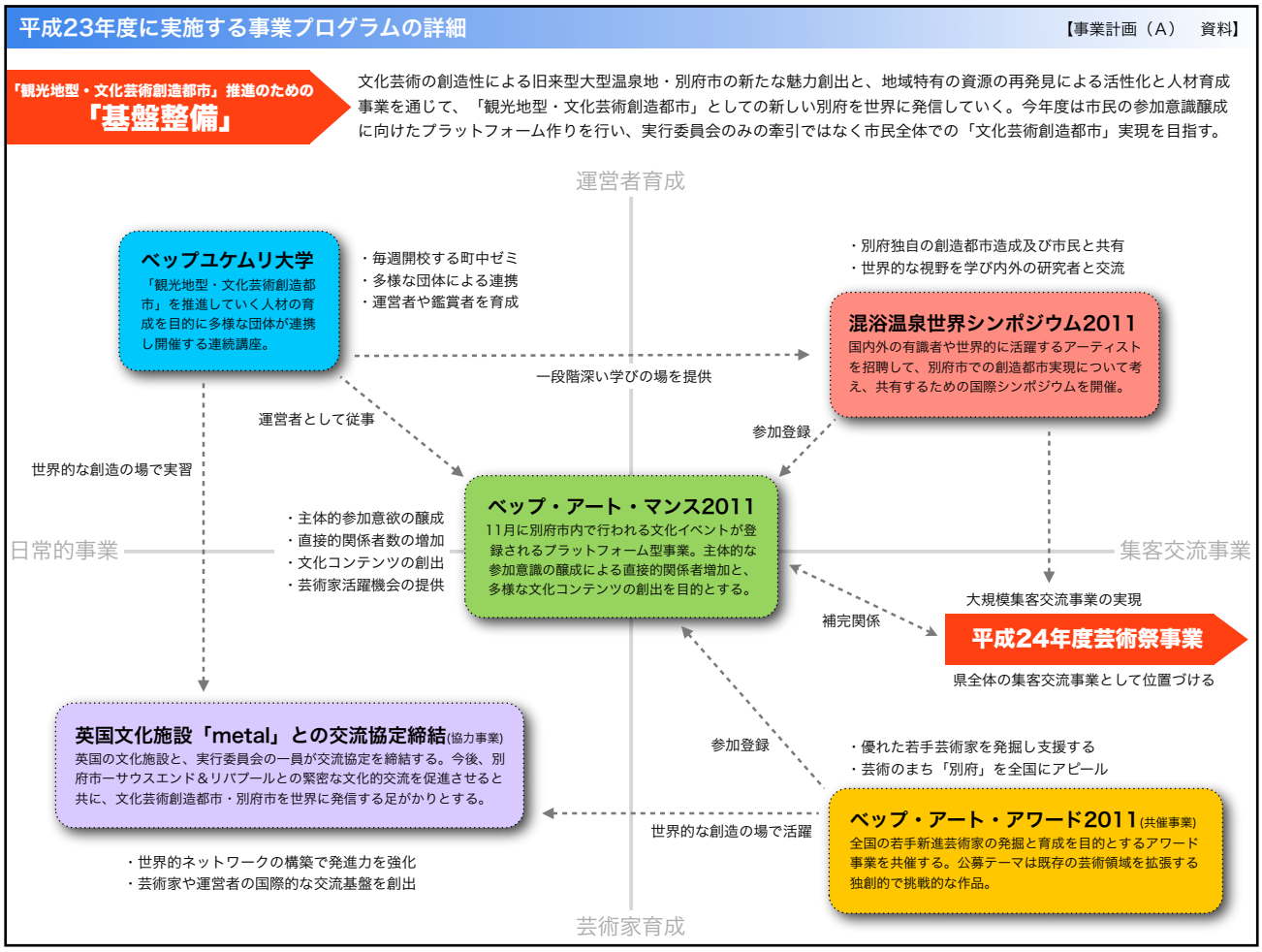


図2　平成23年度に実施する事業プログラムの詳細
(「平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業」提出資料より)

「ベップ・アート・マンス」は様々な他事業と関連しながら、別府らしい芸術振興事業の確立に向け、市民全体での「文化芸術創造都市」の実現を目指すために開催する。(上図参照)

具体的には、日常的に学びを提供する、多様な団体により開講される町中ゼミ「ベップユケムリ大学」や、国内外の有職者を招聘し、別府独自の創造都市の実現について考える「混浴温泉世界シンポジウム」などが関係することにより、これからの「文化芸術創造都市」を推進する人材育成を図る。また、今年度の「ベップ・アート・マンス 2011」のプログラムとして実施された「ベップ・アート・アワード 2011」では、優れた若手芸術家を発掘すること、また、芸術のまち「別府」を全国に発信していくことを目的として実施している。更には別府の活動を世界的に発信すると共に、芸術家や運営者の国際的な交流創出を目的とした英国文化施設「metal」との交流協定締結がある。これらの事業が相互に作用し合い、市民全体での「文化創造都市」推進のための基盤となる。

第２節　開催概要

(1) 開催趣旨

「ベップ・アート・マンス」とは、 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会（以下、実行委員会）が主催者となり、11月の１ヶ月間、別府で開催される様々な文化事業を紹介し、開催を支援する登録型のプラットフォーム事業である。小規模文化団体の育成・支援を目的に広報協力、事務局業務代行、企画立案から実現に向けたサポートを行うことで、市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興と活力あふれる地域の実現を目指す取り組みである。

事業の目的は、下記の４つである。

１．別府市における文化芸術の振興
２．別府市における文化芸術の鑑賞機会の充実
３．様々な芸術表現の発表機会の提供
４．別府市における集客交流人口の増加

(2) 開催クレジット

主　催：別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
事業名：ベップ・アート・マンス 2011
会　期：2011年11月1日(火)～30日(水)
会　場：別府市内各所 41会場
キャッチコピー：「別府文化月間」
協　賛：(株)大分銀行別府支店／(株)大分みらい信用金庫／(株)トキハ別府店／(株)イズミゆめタウン別府／(株)マルショク／ツーリズムおおいた／別府商工会議所／社団法人 別府市観光協会／別府市旅館ホテル組合連合会／別府市中心市街地活性会協議会／NPO法人 BEPPU PROJECT
後　援：大分県／別府市／大分県教育委員会／別府市教育委員会／ツーリズムおおいた／別府商工会議所／別府市観光協会／別府市旅館ホテル組合連合会／別府市中心市街地活性化協議会／別府市商店街連合会／別府料飲協同組合／大分県民芸術文化祭実行委員会／大分県芸術文化振興会議／大分合同新聞社／朝日新聞社／毎日新聞社／読売新聞西部本社／西日本新聞社／共同通信社／今日新聞社／NHK 大分放送局／OBS 大分放送／TOS テレビ大分／OAB 大分朝日放送／エフエム大分／CTB メディア／シティ情報おおいた／CONKA
委　託：平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業
助　成：財団法人 文化・芸術による福武地域振興財団
ときめく心 きらめくハーモニー 第13回大分県民芸術文化祭参加行事

(3) 特設インフォメーションブース

当事業の会期１週間前の2011年10月24日(月)から会期終了日の11月30日(水)の38日間、別府駅内に特設インフォメーションブース(以下、インフォメーションブース)を開設した。インフォメーションブースの運営は、事務局の他、アルバイトスタッフが行った。

インフォメーションブースでは、総合パンフレットの配布や、各プログラムのチラシ配布、チケットの販売、プログラムの予約などを行った。



営業会期：2011年10月24日(月)～11月30日(水) 12:00～18:30　会期中無休

第３節　実施記録

(1)　実施プログラムについて

　当事業では、募集期間を一次募集と二次募集の２回にわけ、県内外の団体・個人に広くプログラムを公募した。最終的に57団体・個人による、87プログラムが実施された。

	2010年度	2011年度
参加団体・個人数	27団体・個人	57団体・個人
プログラム数	43プログラム	87プログラム

募集期間　一次募集期間：2011年８月８日(月)～８月19日(金)
　　二次募集期間：2011年８月23日(火)～９月２日(金)

募集結果

　昨年度に比べて、参加団体・個人数、プログラム数共に約２倍となった。参加団体・個人には、プログラム実施に関する合同説明会を計３回開催した。



説明会

日　時：2011年９月３日(土)、４日(日)、11日(日)
場　所：platform01

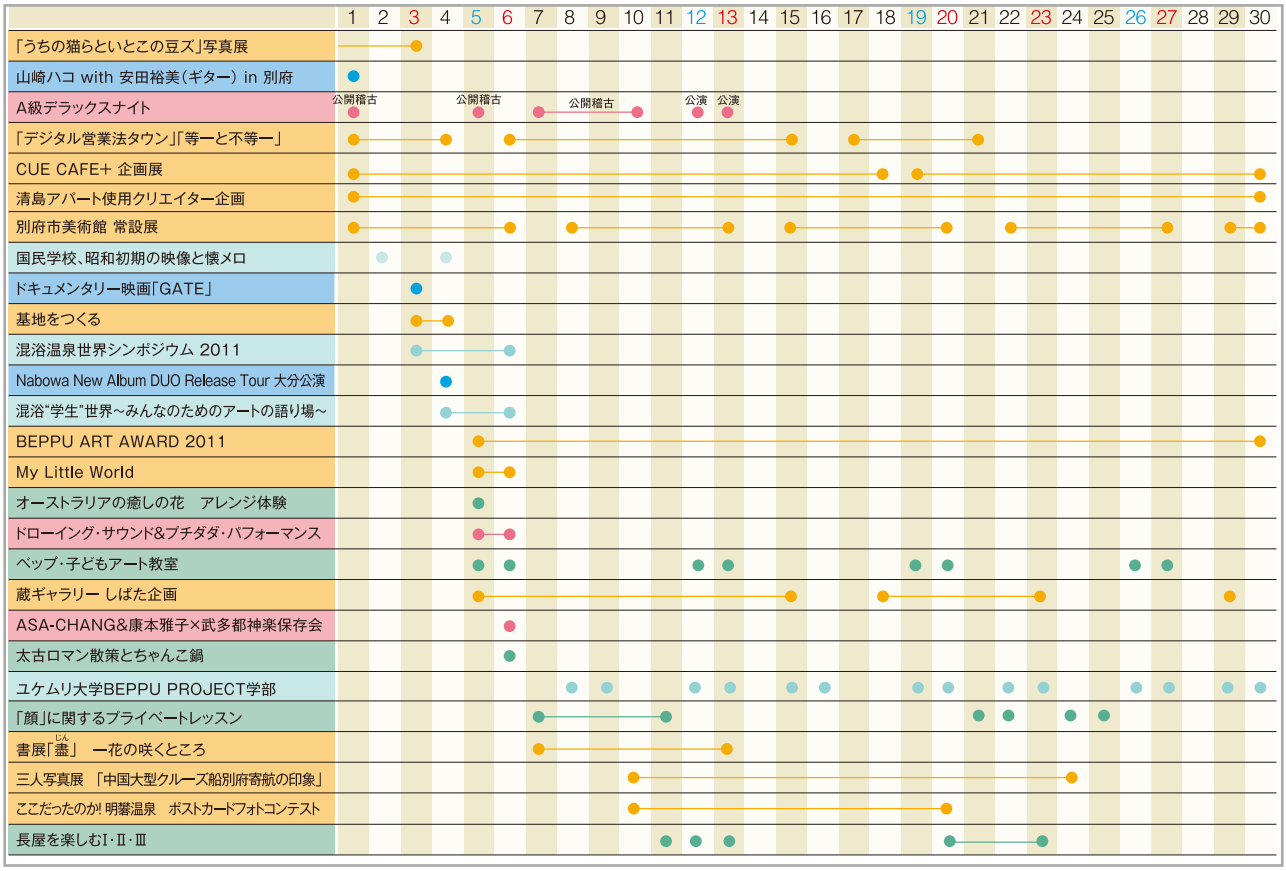
1 - 1　プログラム実施団体・個人一覧　※五十音順

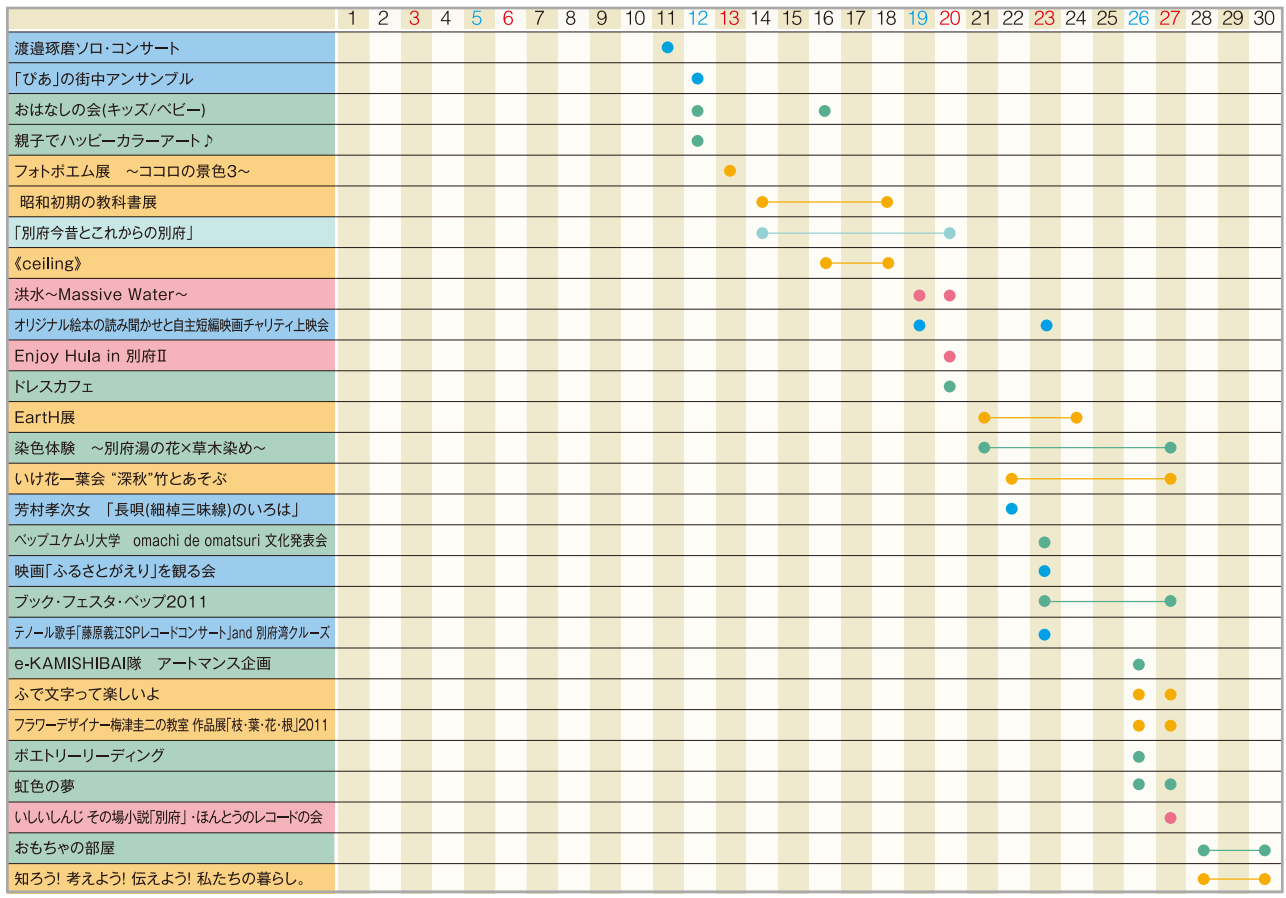
ページ	実施者名	プログラム名	初参加
12	EARTHSCAPE	EARTHSCAPE-OPEN LAB	
		道草を食う	
		知られざるEARTHSCAPEの全て	
13	EartHプロジェクト　川島茂雄	EartH展	○
14	island 湯けむり guest room	わくわく清島ワンルーム	○
14	アンサンブル ぴあ	「ぴあ」の街中アンサンブル	○
14	e-KAMISHIBAI隊	e-KAMISHIBAI隊 アートマンス企画	○
15	池田 ひとみ	オープンアトリエ	
		「温泉モチーフを編む会」	○
		池田ひとみと平川渚の「糸はびこりけり」	
16	ITAN-G	ドキュメンタリー映画「GATE」	
		長屋を楽しむⅠ やさしいヨーガときまぐれ定食	○
		長屋を楽しむⅡ 心知いい音ときまぐれ定食	
		長屋を楽しむⅢ たんぽぽ+わたげ=和く輪く天	
17	梅本美術研究所 主宰 梅本弥生	ベップ・子どもアート教室 ・デザインTシャツ ～あなただけの特別なＴシャツ～ ・親子スケッチ大会 ・絵手紙講座～そしてあの人に送ろう～ ・手作りランプ	○

ページ	実施者名	プログラム名	初参加
17	uramasanobu	Nabowa New Album Duo Release Tour 大分公演	
17	大分大学教育福祉科学部被服学研究室 ／聴潮閣企画室	染色体験〜別府湯の花×草木染め〜	○
18	おじぎ草	ドローイング・サウンド&プチ・ダダ・パフォーマンス	○
18	花彩パレット　小野 薫	オーストラリアの癒しの花アレンジ体験	○
19	勝 正光	勝 正光　個展	
19	木部鉄也	CUE CAFE+ 企画展 〜We meets PORTICO POPILYN!〜	○
		CUE CAFE+ 企画展 二宮 敏泰 作品展	
20	河原 匪石(美紀)	書展「盡(じん)」ー 花の咲くところ	○
20	清島アパート使用クリエイター	清島オープンアパート	
20	草本利枝	いしいしんじ その場小説「別府」	○
		ほんとうのレコードの会	
21	蔵ギャラリーしばた	かわくぼみちこ 書×絵 いろいろな形展	
		佐々木 良枝 もの思う鳥たち リトグラフ展	
		楽しく音読	
22	神戸大アートマネージメント研究会	混浴"学生"世界 〜みんなのためのアートの語り場〜	
22	コミック芸能企画 萱嶋仁侠	国民学校、昭和初期の映像と懐メロ	○
		昭和初期の教科書展	
23	さいかちの会	ふで文字って楽しいよ	○
23	3人展(平野芳弘・河野 勇・山本普詳)	三人写真展「中国大型クルーズ船別府寄航の印象」	○
24	高橋 東洋雄(亀川温泉亀カメ倶楽部)	太古ロマン散策とちゃんこ鍋	○
24	孝美	「顔」に関するプライベートレッスン	○
24	「竹・ルネサンス」実行委員会	いけ花一葉会　”深秋”竹とあそぶ	
25	竹下洋子	語ろう、纏おう、竹下洋子の世界	
25	田中愛理	基地をつくる	○
25	二名子	渡邉琢磨ソロ・コンサート	○
26	二宮敏泰	オリジナル絵本の読み聞かせと自主短編映画チャリティ上映会	
26	日野 禎	日野 禎　個展	○
26	平川渚と大橋重臣	虹色の夢	○
27	Hui o Mau oli oli o Mapuana	Enjoy Hula in 別府 II	
27	フォーク&ポップス博堂村	山崎ハコ with 安田裕美(ギター) in 別府	○
28	platform03まちなかカフェ、 ブック・フェスタ・プロジェクト	ブック・フェスタ・ベップ 2011 〜「本の魔法」が人とまちをつなぐ5日間のクルーズ〜 ・Mr.スティービーさんの絵本読み語りLive&ワークショップ ・本と出会うまちなかクルーズ&学生ガイドツアー ・べっぷ一箱古本市	○
29	有限会社 うめづ生花店 代表取締役社長 梅津圭二	フワラーデザイナー梅津圭二の教室 作品展 「枝・葉・花・根」2011	○
29	株式会社 precog	ASA-CHANG&康本雅子×武多都神楽保存会	○

ページ	実施者名	プログラム名	初参加
29	ふるさと会(代表：河村建一)	「別府今昔とこれからの別府」	○
		テノール歌手「藤原義江SPレコードコンサート」 and 別府湾クルーズ	
30	「ふるさとがえり」別府上映実行委員会	映画「ふるさとがえり」を観る会	○
31	NPO法人 BEPPU PROJECT	BEPPU ART AWARD 2011グランプリ受賞展 「別府熱学消化器美術館」	
		ユケムリ大学BEPPU PROJECT学部 ・現代アート入門　講座B ・アートフェスティバルの楽しみ方 ・大分の建築家×BEPPU PROJECT ・SELECT BEPPU WS　私が撮る別府の写真絵はがき ・WEEKEND WORKSHOP 「三代広人生誕25年記念・大しゃしゃ、しゃせい大会」	
		ポエトリーリーディング	
		おもちゃの部屋	
33	NPO法人 べっぷ未来塾	ベップユケムリ大学 omachi de omatsuri 文化発表会	
34	別府巡レッグウォーマーず	A級デラックスナイト～あらゆる世代の一大レヴューショウ～	
34	別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」 実行委員会、 NPO法人 BEPPU PROJECT	混浴温泉シンポジウム 2011	
36	別府市美術館	別府市美術館 常設展	
36	別府市立図書館	おはなしの会(キッズ/ベビー)	○
37	ポエムアート 木村三恵	フォトポエム展～ココロの景色３～	
37	眞島竜男	アートとは何か? in Beppu　眞島竜男×山出淳也	○
		PEP in Beppu ～別府でPEP～	
		Battering Feast～別府で「天ぷら」～	
38	三代広人	三代広人美術館	
38	明礬温泉協同組合	ここだったのか! 明礬温泉 ポストカードフォトコンテスト	○
39	みんな家族	知ろう! 考えよう! 伝えよう! 私たちの暮らし。 ・「風天百笑画家 北原慎二の絵画展」 ・「学生から見る、"今の暮らし"写真展」 ・「もんぺと裂き織りベスト、着ています。」 ・音楽ドキュメンタリー映画『Canta!Timor』上映会 ・ Baobab 暮らしconcert	○
40	山中カメラ 三代広人	「ゼットカメラ・ジャパン」	○
40	山本 健	《ceiling》	○
40	指輪ホテル	洪水～Massive water～	○
41	油布 季良美 (カラーコミュニケーションOITA)	親子でハッピーカラーアート♪	○
41	吉松文男＆直子	「うちの猫らといとこの豆ズ」写真展 @トキハ別府店	○
41	芳村 孝次女	芳村 孝次女 「長唄(細棹三味線)のいろは」	○
41	レイジーシンデレラ	ドレスカフェ	○
42	ワンヤマ・ユジーン	My little world	○

1 - 2　プログラム実施スケジュール

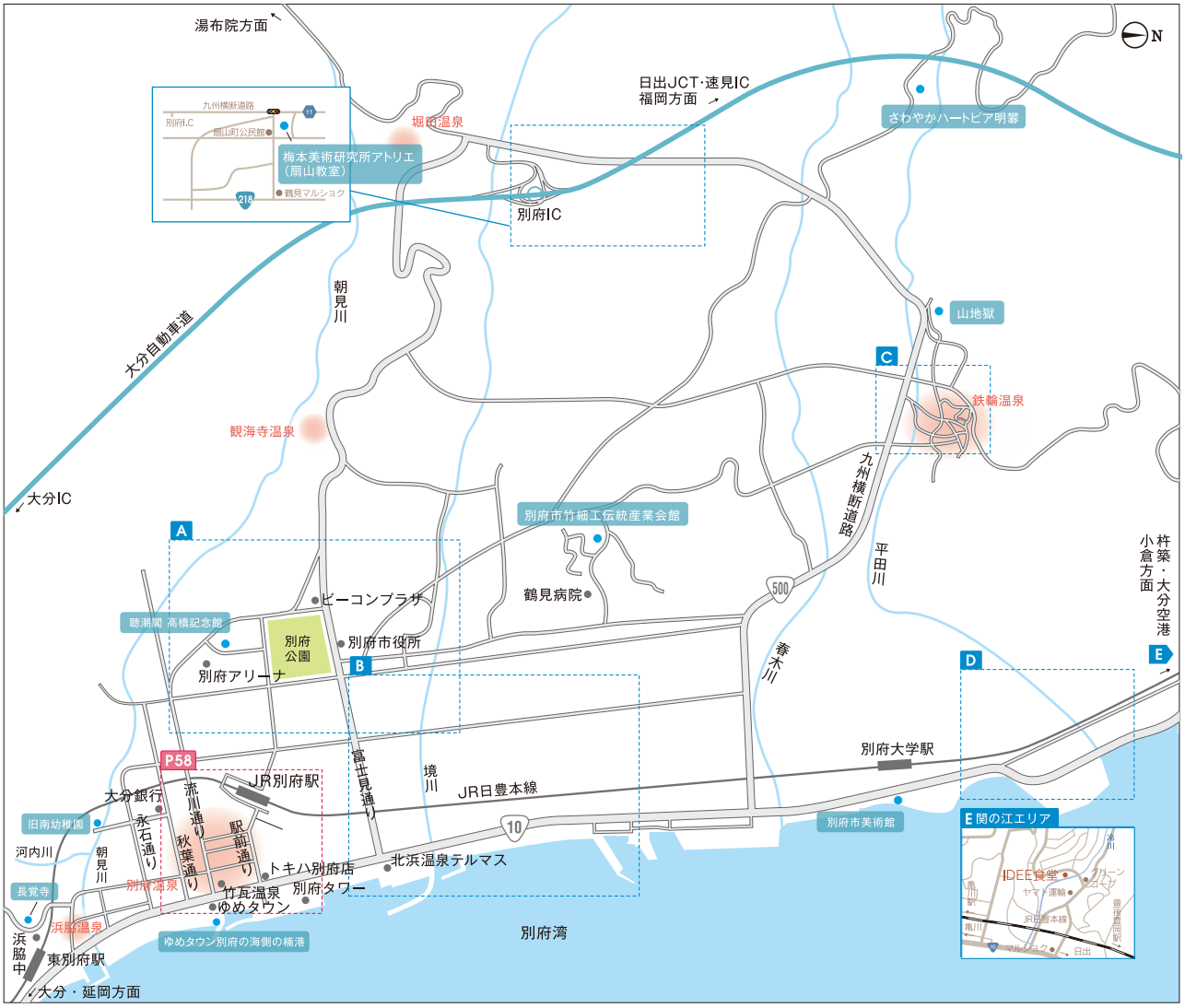




1 - 3　プログラム実施会場マップ

今回、使用された会場は全部で41会場であった。

別府市全域











中心市街地

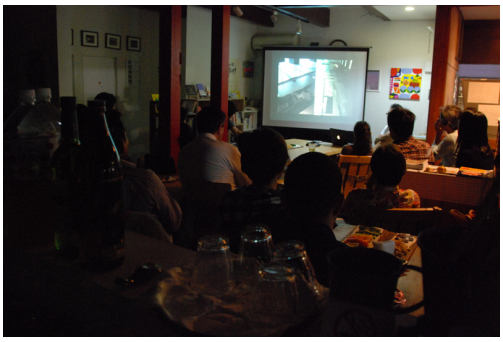


(2)　各プログラム実施記録

　全プログラムの集客数の総計は、**11,751名**であった。
昨年度の集客数の総計は、3,930名だった事から、約３倍の集客数であった。これは、プログラム数が増えた事と、集客力のあるプログラムが多かった事からの結果と言えるだろう。
来場者の内訳に関しては、第７節「来場者について」で記述する。

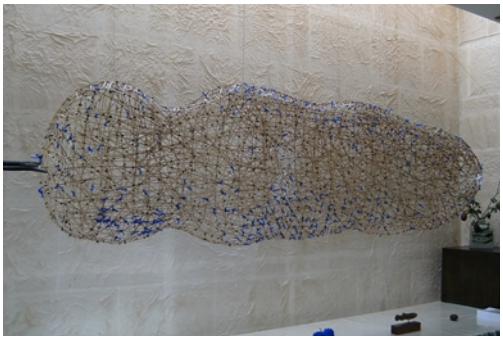
■ EARTHSCAPE (アースケープ)

プログラム名	EARTHSCAPE - OPEN LAB	プログラム写真
内　容	EARTHSCAPE - LABのベールに包まれた研究開発の現場を、期間中に限り一般公開した。	
日にち	11月1日(火)～1日(日)、28日(月)～12月4日(日) ※11月7日(月)～27日(日)は要予約	
時　間	13:00 - 18:00	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
集客数	100名	

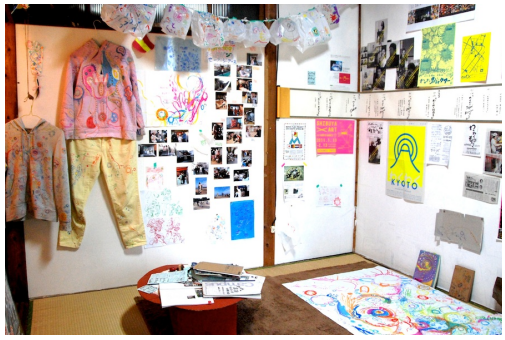
プログラム名	知られざるEARTHSCAPEの全て - 団塚栄喜デザイントーク	プログラム写真
内　容	代表の団塚栄喜氏による、これまでの活動やランドスケープの仕事の話、アートイベント、プロダクトデザインなど様々な内容をスライドを交えて話した。	
日にち	11月5日(土)	
時　間	17:00～19:00	
会　場	platform03 まちなかカフェ	
料　金	7BP／700円	
集客数	30名	

プログラム名	道草を食う - 食のワークショップ	プログラム写真
内　容	別府の町を歩き回り、道の雑草や木の実を採集しながら、収穫した草や木の実を使って食事を作るワークショップを開催した。	
日にち	11月5日(土)	
時　間	10:00～14:00	
会　場	platform03 まちなかカフェ	
料　金	15BP／1500円	
集客数	15名	

■ EartHプロジェクト

プログラム名	EartH展	プログラム写真
内　容	アーティストが個人的に作品を制作するということではなく、みんながみんなの為にと願いを込めたアートを通して、夢と希望に満ちた世界を求めるプロジェクト。空に浮かぶ雲と魚をイメージしたオブジェに、来場者がそれぞれの願いを込めて、糸を結びつけていった。	
日にち	11月21日(月)～24日(木)	
時　間	11:00～夕暮れ	
会　場	海の見える丘のアトリエ	
料　金	無料	
参加作家	川島茂雄、清水貴之、伊島ふじ子	
集客数	120名	

■ Island 湯けむり guestroom

プログラム名	わくわく清島ワンルーム	プログラム写真
内　容	2009年に開催した「わくわく清島アパート」から始まり、全国各地で開催された“わくわく”の展示を行った。期間中はアーティストが在中していたため、地元の方々や来場者との交流もあった。	
日にち	11月1日(火)～12月5日(月)	
時　間	13:00～18:00	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
参加作家	勝 正光、豚星なつみ、平川 渚、衛藤汐里、山本善之、飯山本、斎藤幹男、快快の人、鈴木彩花、タエとボリ、いるか姫、松尾晴代、ポムポム、ながはままなみ、ミチコイノウエ、コバヤシミキエ	
集客数	120名	

■ アンサンブル ぴあ

プログラム名	「ぴあ」の街中アンサンブル	プログラム写真
内　容	フルート２本とピアノのユニットで、クラシック・童謡など様々なジャンルの歌や演奏を行なった。	
日にち	11月12日(土)	
時　間	18:00～19:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
参加作家	円藤 久実子、原山 いずみ、小田原 千恵子	
集客数	50名	

■ e-KAMISHIBAI隊

プログラム名	e-KAMISHIBAI隊 アートマンス企画	プログラム写真
内　容	留学生がiPadを使って紙芝居やゲーム、メッセージ交換などを行い、子ども達との国際交流を行った。	
日にち	11月26日(土)	
時　間	14:00～16:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
集客数	19名	

■ 池田 ひとみ

プログラム名	オープンアトリエ	プログラム写真
内　容	アーティストの池田ひとみ氏がこれまでに制作した作品の展示と、制作の様子を公開した。	
日にち	11月3日(木・祝)～6日(日)、10日(木)～13(日)、17日(木)～20日(日)、23日(水・祝)～27日(日)	
時　間	12:00～18:00	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
集客数	100名	

プログラム名	「温泉モチーフを編む会」	プログラム写真
内　容	編み物のワークショップで、別府にちなんだ図柄や温泉のモチーフを参加者に編んでもらった。また、かぎ針編みが初めての人には四角と丸のコースターを編むワークショップを行なった。	
日にち	11月5日(土)、19日(土)、26日(土)	
時　間	13:00～16:00	
会　場	清島アパート	
料　金	5BP／500円	
集客数	9名	

プログラム名	池田ひとみと平川 渚の「糸はびこりけり」	プログラム写真
内　容	清島アパートの通路や共有スペースなどの空間に、毛糸を編んで張り巡らせる公開制作を実施した。アーティストの池田ひとみ氏と平川 渚氏がそれぞれ部屋に糸を張り巡らせ、クモの巣を張るように空間を埋めていった。	
日にち	11月10日(木)、24日(木)	
時　間	13:00～18:00	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
集客数	40名	

■ ITAN-G

プログラム名	ドキュメンタリー映画「GATE」	プログラム写真
内　容	ドキュメンタリー映画の上映を実施。60年もの間燃やし続けていた広島の原爆で起きた「奇跡の火」を、全てが始まった原点に戻し、負の連鎖を断ち切ろうとした、日本の僧侶たちの祈りの行脚のドキュメンタリー。計３回上映を実施した。	
日にち	11月3日(木・祝)	
時　間	10:00・13:00 ・18:00	
会　場	永久別府劇場	
料　金	大人10BP／1,000円　小中高生は無料	
集客数	93名	

プログラム名	長屋を楽しむⅠ　やさしいヨーガときまぐれ定食	プログラム写真
内　容	築100年の長屋にて、ヨーガのレッスンを行なった。また、ヨーガのレッスン終了後には旬の野菜を使った料理での食事会も行い、築100年の長屋でゆっくりと時間を過ごすプログラムとなった。	
日にち	11月11日(金)、12日(土)	
時　間	11:30～14:30	
会　場	platform05	
料　金	15BP／1,500円	
講　師	結城良子 (ヨーガ教室・ハムサ主催)	
集客数	30名	

プログラム名	長屋を楽しむⅡ　心知いい音ときまぐれ定食	プログラム写真
内　容	築100年の長屋にて、クラシックギターの演奏を行なった。また、演奏後には旬の野菜を使った料理での食事会も行った。	
日にち	11月13日(日)	
時　間	11:30～14:30	
会　場	platform05	
料　金	15BP／1,500円	
講　師	竹内竜次 (第36回東京国際ギターコンクール首席２位)	
集客数	25名	

プログラム名	長屋を楽しむIII　たんぽぽ＋わたげ＝和く輪く天	プログラム写真
内　容	築100年の長屋にて、普段は捨ててしまいがちな材料から作られた手ぬぐいやお面、一閑張りなどの作品を展示販売した。	
日にち	11月20日(日)～23日(水・祝)	
時　間	12:00～18:00	
会　場	platform05	
料　金	無料	
集客数	95名	

■ 梅本美術研究所 主宰　梅本弥生

プログラム名	ベップ・子どもアート教室
内　容	子どもを対象にしたワークショップやスケッチ大会を４種類、計８回開催する予定であったが、参加者のキャンセル等のため、実施する事が出来なかった。開催を予定していたプログラムは、自分の好きなTシャツを作る「デザインTシャツ『～あなただけの特別なTシャツ～』」、絵手紙を絵の具や色紙で作る「絵手紙講座『～そしてあの人に送ろう』」、山地獄や竹瓦温泉のスケッチを行なう「親子スケッチ大会」、LEDライトで手作りランプをつくる「手作りランプ」の４種類であった。

■ uramasanobu

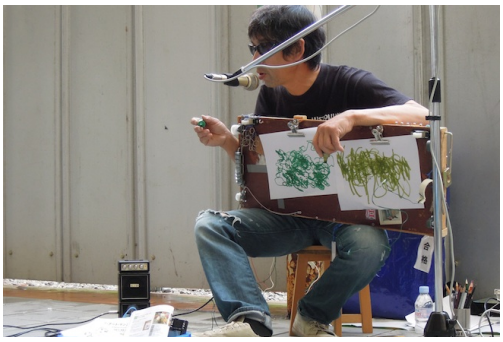
プログラム名	Nabowa New Album DUO Release Tour 大分公演	プログラム写真
内　容	FUJIロック２年連続出演などの活動実績があるNabowaのコンサートを、別府唯一の映画館「別府ブルーバード会館」で開催した。	
日にち	11月4日(金)	
時　間	20:00 開演	
会　場	別府ブルーバード会館３階	
料　金	前売 35BP／3,500円 、 当日 45BP／4,500円 １ドリンク別途 5BP／500円	
出演者	Nabowa、Port of Notes	
集客数	189名	

■ 大分大学教育福祉科学部被服学研究室／聴潮閣企画室

プログラム名	染色体験～別府湯の花×草木染め～　染色体験	プログラム写真
内　容	絹製のハンカチとストールを、別府の温泉資源から得られる湯の花と、天然素材を用いて染めるワークショップを開催した。　湯の花の提供：岡本屋	
日にち	11月25日(金)、26日(土)	
時　間	10:00～12:00、14:00～16:00	
会　場	聴潮閣 高橋記念館 別館	
料　金	ハンカチ 10BP／1,000円、ストール 30BP/3,000円	
集客数	13名	

プログラム名	染色体験〜別府湯の花×草木染め〜　作品展示	プログラム写真
内　容	別府の温泉資源から得られる湯の花と、天然素材を用いて染められたストールなどの展示を行った。	
日にち	11月21日(月)〜27日(日)	
時　間	10:00〜17:00	
会　場	聴潮閣 高橋記念館 別館	
料　金	無料	
集客数	43名	

■ おじぎ草

プログラム名	ドローイング・サウンド＆プチダダ・パフォーマンス	プログラム写真
内　容	ソルパセオ銀座商店街の中で、ギターのように、肩からカンバス的な木の枠(自家製、ガラクタ楽器)をさげ、ペンで絵を描いたり枠を打ち鳴らしたりして演奏するパフォーマンスを行なった。	
日にち	11月5日(土)、6日(日)	
時　間	14:00〜16:00	
会　場	ソルパセオ銀座 真ん中付近	
料　金	無料	
集客数	約60名	

■ 花彩パレット 小野 薫

プログラム名	オーストラリアの癒しの花アレンジ体験会	プログラム写真
内　容	リラックス効果のあるユーカリやティートリーの花を使って、ちょっと珍しいオーストラリアブリザーブドフラワーを作るワークショップを行なった。	
日にち	11月5日(土)	
時　間	14:00〜16:00	
会　場	トキハ別府店４階 連絡通路	
料　金	10BP／1,000円	
集客数	４名	

■ 勝 正光

プログラム名	勝 正光個展	プログラム写真
内　容	「混浴温泉世界 2011」終了後に別府に移住してきたアーティストの勝 正光氏による別府での初めての個展を開催した。鉛筆で書いた旧作と新作の公開を行なった。	
日にち	11月12日(土)～23日(水・祝)	
時　間	13:00～18:30	
会　場	別府市中央市場公民館	
料　金	無料	
集客数	206名	

■ 木部鉄也

プログラム名	CUE CAFE+ 企画展 We meets PORTICO POPILYN!	プログラム写真
内　容	大分市在住の立体造形作家 SAVAKO氏の代表的作品「ポルチコポピリン」の展示。	
日にち	11月1日(火)～18日(金)	
時　間	11:00～17:30	
会　場	cafe ＆gallery CUE CAFE+	
料　金	無料	
参加作家	SAVAKO	
集客数	150名	

プログラム名	CUE CAFE+ 企画展　二宮敏泰の映像と絵画	プログラム写真
内　容	バングラデシュ図書館建設計画「天使のまなざしプロジェクト」主宰者である美術家 二宮敏泰氏の作品の展示・販売。またバングラデシュで撮影した映像作品の上映も行なった。	
日にち	11月19日(土)～30日(水)	
時　間	11:00～17:30	
会　場	cafe ＆gallery CUE CAFE+	
料　金	無料	
参加作家	二宮敏泰	
集客数	150名	

■ 河原 匪石(美紀)

プログラム名	書展「盡(じん)」ー 花の咲くところ	プログラム写真
内　容	別府で受けたインスピレーションを反映した「書」の新作の展示を行なった。地元住民、観光客、アート関係者と幅広い層の来場者が訪れた。	
日にち	11月7日(月)～13日(日)	
時　間	10:30～17:00	
会　場	冨士屋Gallery一也百	
料　金	無料	
集客数	82名	

■ 清島アパート使用クリエイター

プログラム名	清島オープンアパート	プログラム写真
内　容	清島アパートに拠点を持っている作家による作品展示を行なった。	
日にち	11月28日(月)～12月4日(日)	
時　間	13:00～18:00　※12月2日(金)のみ21:00まで	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
参加作家	EARTHSCAPE、island japan、レッグ♨カメラ、池田ひとみ、勝 正光、竹下洋子、眞島竜男、三代広人	
集客数	156名	

■ 草本利枝

プログラム名	いしいしんじ その場小説「別府」	プログラム写真
内　容	作家のいしいしんじ氏による、「別府」というタイトルで、その場にちなんだ物語を即興でつむぎだす「その場小説」のパフォーマンスを行なった。また、来場者には書き上げられた原稿のコピーがプレゼントされた。	
日にち	11月27日(日)	
時　間	14:00 開演	
会　場	永久別府劇場	
料　金	10BP／1,000円	
参加作家	いしいしんじ	
集客数	63名	

プログラム名	ほんとうのレコードの会	プログラム写真
内　容	昭和初期の建物を舞台に、蓄音機「コロちゃん」から流れるSPレコードの鑑賞会を行なった。	
日にち	11月27日(日)	
時　間	19:00 開演	
会　場	P3/BEP.lab	
料　金	10BP／1,000円	
参加作家	いしいしんじ	
集客数	40名	

■ 蔵ギャラリー しばた

プログラム名	かわくぼみちこ 書×絵 いろいろな形展	プログラム写真
内　容	かわくぼみちこ氏による、書や絵の作品の展示を行なった。また、ポストカードやポチ袋に字や絵を書くワークショップも同時に開催した。	
日にち	11月5日(土)～15日(火)	
時　間	11:00～17:30	
会　場	蔵ギャラリーしばた	
料　金	無料	
参加作家	かわくぼみちこ	
集客数	200名	

プログラム名	佐々木 良枝　もの思う鳥たち リトグラフ展	プログラム写真
内　容	佐々木 良枝氏のリトグラフ作品や、水彩画、約40点ほどの作品展示を行った。	
日にち	11月18日(金)～23日(水・祝)	
時　間	11:00～17:30	
会　場	蔵ギャラリーしばた	
料　金	無料	
参加作家	佐々木 良枝	
集客数	150名	

プログラム名	楽しく音読	プログラム写真
内　容	今年６年目を迎えた、ジャンルを問わず、声に出して楽しく本を読む「音読の会」を開催した。また、今回は「ベップ・アート・マンス 2011」の会期中なので、「別府」がテーマの絵本や、小説、エッセイなどの音読を行なった。	
日にち	11月29日(火)	
時　間	13:00～15:00	
会　場	蔵ギャラリーしばた	
料　金	７BP／700円(飲物つき)	
集客数	30名	

■ 神戸大アートマネジメント研究会

プログラム名	混浴“学生”世界 ～みんなのためのアートの語り場～	プログラム写真
内　容	昨年に引き続き、２回目の開催。３日間それぞれのテーマをもとに文化政策についての座談会を行なった。各日のテーマは、「こどもとアート」「ちいきとアート」「アートマネジメントの人材をそだてる－日本とドイツの場合」であった。	
日にち	11月4日(金)、 5日(土)、6日(日)	
時　間	4日 20:30～22:00、5・6日 19:00～21:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
集客数	53名	

■ コミック芸能企画 萱嶋仁侠

プログラム名	国民学校、昭和初期の映像と懐メロ	プログラム写真
内　容	国民学校昭和初期の映像と懐メロのスライド上映と、その解説を行なった。	
日にち	11月2日(水)、4日(金)	
時　間	13:30～15:30	
会　場	永久別府劇場	
料　金	５BP／500円	
集客数	37名	

プログラム名	昭和初期の教科書展	プログラム写真
内　容	尋常小学校、国民学校、女学校の教科書の展示や、パネルの展示を行なった。来場者の中には、外国からの旅行者もおり、関心を寄せていた。	
日にち	11月14日(月)～18日(金)	
時　間	13:00～17:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
集客数	132名	

■ さいかちの会

プログラム名	ふで文字って楽しいよ	プログラム写真
内　容	別府市内の習字教室の指導者や生徒たちのふで文字の作品展を行なった。当日は、生徒の家族や通りすがりの方がワークショップでふで文字の体験を行なった。	
日にち	11月26日(土)、27日(日)	
時　間	26日 10:00～18:00、27日 10:00～17:00	
会　場	トキハ別府店４階 連絡通路	
料　金	無料	
集客数	150名	

■ ３人展 (平野芳弘・河野 勇・山本普詳)

プログラム名	三人写真展「中国大型クルーズ船別府寄航の印象」	プログラム写真
内　容	2011年８月に４回寄航した大型クルーズ船「レジェンドオブザシーズ」の写真60点の展示を行なった。また、13日・20日・23日にはビデオ上映を行なった。	
日にち	11月10日(木)～24日(木)　※16日(水)は休み	
時　間	10:00～19:00	
会　場	トキハ別府店３階 連絡通路	
料　金	無料	
集客数	200名	

■ 高橋 東洋雄(亀川温泉龜カメ倶楽部)

プログラム名	太古ロマン散策とちゃんこ鍋	プログラム写真
内　容	当初、亀川地区に古くから伝わる歴史や遺跡を巡るコースの散策を予定していたが、雨天のため、亀川の街を散策するコースに変更になった。散策後には、元関脇の琴別府関の手作りちゃんこ鍋が振る舞われた。	
日にち	11月6日(日)	
時　間	10:00～12:30	
会　場	集合場所　亀川駅前のJA	
料　金	10BP／1,000円	
出演者	元関脇 琴別府関	
集客数	28名	

■ 孝美

プログラム名	「顔」に関するプライベートレッスン	プログラム写真
内　容	参加者の「顔」に関するワークシートを作成し、カウンセリングを行い、スキンケアやメイクの仕方のレッスンを行なった。普段行なう化粧行為と、レッスンでの化粧の仕方の「違い」におもしろさを感じている来場者が多かった。	
日にち	11月７日(月)～11日(金)、21日(月)、22日(火)、24日(木)、25日(金)	
時　間	10:00～16:00	
会　場	platform01	
料　金	25BP／2,500円	
集客数	17名	

■ 「竹・ルネサンス」実行委員会

プログラム名	いけ花一葉会　“深秋”竹とあそぶ	プログラム写真
内　容	青竹を大胆に用いた立体感のあるオブジェを花器に見立て、そこに秋の草花を多彩にアレンジした作品をメインに据え、壁面や展示台には伝統的工芸品「別府竹細工」の特徴である編組を駆使した多様な花籠を配置、自由な発想で花を生けた作品に来館者から高い評価を得る事ができた。	
日にち	11月22日(火)～27日(日)	
時　間	8:30～17:00	
会　場	別府市竹細工伝統産業会館	
料　金	３BP／300円	
集客数	505名	

■ 竹下洋子

プログラム名	語ろう、纏おう、竹下洋子の世界	プログラム写真
内　容	これまでの竹下洋子氏が実施したイベントのスライドやテレビ取材などの映像の鑑賞を行なった後、本人のトーク、また、本人のニット作品を実際に試着しながらの解説を行なった。	
日にち	11月12日(土)	
時　間	13:30～16:30	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
集客数	36名	

■ 田中愛理

プログラム名	基地をつくる	プログラム写真
内　容	大量の風船で秘密基地をつくる公開制作展。来場者も制作に参加できるため、多くの親子連れが体験・鑑賞した。最終的に参加者と実施者で400個以上の風船が集まり「みんなでつくる基地」を実現した。	
日にち	11月3日(木・祝) 、4日(金)	
時　間	10:00～18:00	
会　場	トキハ別府店３階 連絡通路	
料　金	無料	
集客数	50名	

■ 二名子

プログラム名	渡邊琢磨 ソロ・コンサート	プログラム写真
内　容	音楽家の渡邊琢磨氏のピアノの独演と、彼の地元での生活を美術家の二宮圭一氏が記録した映像を上映、また、二宮氏編集の冊子を配布した。演奏の鑑賞だけで終わるのではなく、そこで失われている部分を映像と冊子で伝えることによって、１つのストーリーをつくった。	
日にち	11月11日(金)	
時　間	19:30～22:00	
会　場	別府市中央公民館大ホール	
料　金	前売り 一般 20BP／2,000円、学生 15BP／1,500円 当日　 一般 25BP／2,500円、学生 20BP／2,000円	
出演者	渡邊琢磨(音楽家)、二宮圭一(美術家)	
集客数	184名	

■ 二宮敏泰

プログラム名	**オリジナル絵本の読み聞かせと 自主短編映画チャリティ上映会**	プログラム写真
内　容	全く雰囲気の異なる2つの会場での実施であった。バングラデシュの教科書や写真、映像などを展示した。バングラデシュの留学生と、二宮氏と長年一緒に活動している方も訪れ、来場者と交流をした。また、チャリティイベントとして募金も行なった。	
日にち	11月19日(土)、23日(水・祝)	
時　間	14:00～15:00	
会　場	19日 旧南幼稚園 、23日 くつろぎの宿 山田別荘	
料　金	無料	
出演者	二宮敏泰、カリル、ターレン(立命館アジア太平洋大学在学中のバングラデシュの留学生)	
集客数	19日：49名、23日：26名	

■ 日野 禎

プログラム名	**日野 禎　個展**	プログラム写真
内　容	現実の世界と関係がある、またはない世界を表現した。絵画作品の壁面展示を行った。但し、当初の内容から、都合によりタイトル、展示作品の内容、会期の変更を行なった。	
日にち	11月1日(火)～4日(金)	
時　間	10:00～19:00	
会　場	トキハ別府店４階 連絡通路	
料　金	無料	
集客数	55名	

■ 平川 渚と大橋重臣

プログラム名	**虹色の夢**	プログラム写真
内　容	竹の輪に糸を編んだオリジナルしゃぼん玉装置を作成し、参加者はそれを自由にしゃぼん玉液につけてしゃぼん玉(虹玉)を作って海辺で遊んだ。	
日にち	11月26日(土) 、27日(日)	
時　間	13:00～15:00	
会　場	別府スパビーチ	
料　金	無料	
集客数	100名	

■ Hui o Mau oli oli o Mapuana

プログラム名	Enjoy Hula in 別府 II	プログラム写真
内　容	Hulaに関する話しと、ウクレレの生演奏をバックにフラダンスを踊った。当日は駅の構内に南国の風が感じられた。	
日にち	11月20日(日)	
時　間	13:00～14:00	
会　場	別府駅構内	
料　金	無料	
出演者	おかべ はちろう、 オマプアナスタジオスクールメンバー	
集客数	50名	

■ フォーク&ポップス 博堂村

プログラム名	山崎ハコ with 安田裕美(ギター) in 別府	プログラム写真
内　容	大分県日田市出身のアーティスト山崎ハコ氏とギターの安田裕美氏、そして、県内のアマチュアバンドの交流ライブイベントを行なった。	
日にち	11月1日(火)	
時　間	20:00～22:00	
会　場	別府ブルーバード会館３階	
料　金	前売り　一般　35BP／3,500円 当日　40BP／4,000円 中高生 15BP／1,500円	
出演者	山崎ハコ with 安田裕美、身不知、松井こういち	
集客数	158名	

■ platform03まちなかカフェ、ブック・フェスタ・プロジェクト

プログラム名	ブック・フェスタ・ベップ 2011	プログラム写真
内　容	立命館アジア太平洋大学の学生グループによる町中での「本の祭典」。東京の谷中・根津・千駄木エリアで2005年からスタートした「不忍ブックストリート」を参考にしたもの。	
日にち	11月23日(水・祝)～27日(日)	
時　間	10:00～17:00	
会　場	platform03ほか中心市街地一帯	
集客数	のべ2,400名	
プログラム詳細	本と出会うまちなかクルーズ platform03他、中心市街地一帯にブック・スポットを設置し、商店の中や街角などで自由に本を読みながら町を回遊できる企画を行なった。 日　時：11月23日(水・祝)～27日(日)　10:00～17:00 会　場：platform03ほか中心市街地一帯 料　金：無料または3BP／300円(会場によって異なる) 学生ガイドツアー 立命館アジア太平洋大学の学生が中心市街地のお勧めスポットを紹介するガイドツアーを行なった。 日　時：11月26日(土)、27日(日)　13:00～15:00 会　場：platform03ほか中心市街地一帯 料　金：5BP／500円　1ドリンク、 クルーズ・チケット付き Mr. スティービーさんの絵本の読み語りLive&ワークショップ 沖縄県からやってきたタレントMr.スティービー氏による絵本の読み聞かせLiveとワークショップを行なった。 日　時：11月26日(土)　15:00～17:00 会　場：永久別府劇場 出演者：Mr.スティービー(タレント) 料　金：5BP／500円　クルーズ・チケット付き べっぷ一箱古本市 一般の方から希望者を募り、商店街や旧商店の中で古本市を開催。老若男女問わず出店し、様々なジャンルの本が街中に並んだ。 日　時：11月27日(日)　10:00～16:00 会　場：ソルパセオ銀座、やよい天狗通り他 料　金：無料	

■ 有限会社 うめづ生花店 代表取締役社長 梅津圭二

プログラム名	フラワーデザイナー梅津圭二の教室 作品展 「枝・葉・花・根」2011	プログラム写真
内　容	梅津圭二教室の代表作家たちの作品展。26日(土)は代表作家による公開制作と展示、27日(日)はクリスマスのフラワーアレンジメントのレッスンを実施。	
日にち	11月26日(土)、27日(日)	
時　間	公開制作・展示 26日 10:00～19:00 レッスン 27日 14:00～15:00	
会　場	トキハ別府店３階 連絡通路、店内各所	
料　金	展示：無料、レッスン：10BP／1,000円	
出演者	フラワーデザイナー梅津圭二と教室代表作家たち	
集客数	のべ100名	

■ 株式会社 precog

プログラム名	ASA-CHANG & 康本雅子 × 武多都神楽保存会	プログラム写真
内　容	様々な楽器を使いこなし楽曲にアプローチするミュージシャンASA-CHANG氏とアジア・アフリカの放浪で得たしなやかなダンステクニックを持つダンサーの康本雅子氏のパフォーマンス。地元の伝統文化として国東半島の武多都神楽保存会も神楽を披露。	
日にち	11月6日 (日)	
時　間	17:00～18:30	
会　場	永久別府劇場	
料　金	前売り 25BP／2,500円　当日 30BP／3,000円	
出演者	武多都神楽保存会、ASA-CHANG&康本雅子	
集客数	94名	

■ ふるさと会(代表：河村 建一)

プログラム名	「別府今昔とこれからの別府」ディスカッション	プログラム写真
内　容	明治～大正～昭和初期の別府について、スライド写真と共に説明し、参加者とディスカッションを行った。	
日にち	11月14日 (月)	
時　間	19:00～20:30	
会　場	紙屋公民館(紙屋温泉２階)	
料　金	無料	
集客数	８名	

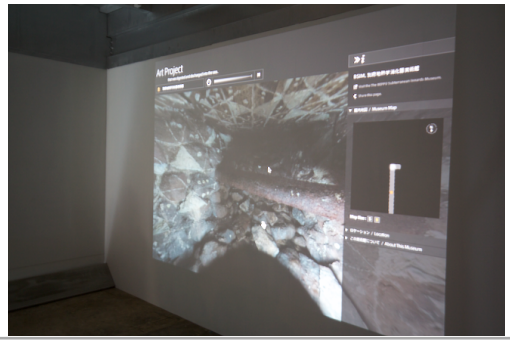
プログラム名	「別府今昔とこれからの別府」　残したい建物展	プログラム写真
内　容	県内外に存在する(存在していた)後世に残していきたい建築物の模型の展示。	
日にち	11月14日(月)～20日(日)	
時　間	13:00～21:00	
会　場	紙屋公民館(紙屋温泉２階)	
料　金	無料	
集客数	未カウント	

プログラム名	テノール歌手「藤原義江SPレコードコンサート」and 別府湾クルーズ	プログラム写真
内　容	メモリアル号の船上で杵築市出身の藤原義江氏のSPレコードコンサート開催し、ディスカッションを行った後、別府湾クルーズを実施した。	
日にち	11月23日(水・祝)	
時　間	14:00～16:00	
会　場	メモリアル号の船上	
料　金	20BP／2,000円	
集客数	６名	

■「ふるさとがえり」別府上映実行委員会

プログラム名	映画「ふるさとがえり」を観る会	プログラム写真
内　容	当日は恵那市民の方や、監督、出演者である大分県出身の是永氏も舞台挨拶に駆けつけた。特別ステージでは参加者からの質問も殺到し、白熱した討論が交わされた。上映会という企画から飛び出して、九州での上映会、岐阜県恵那市とのつながりができ有意義なプログラムとなった。	
日にち	11月23日(水・祝)	
時　間	①10:00～12:00 ②13:00～15:00 ③17:00～19:00 ④ 20:00～22:00 15:30～16:30　監督や出演者によるトーク	
会　場	別府ブルーバード会館３階	
料　金	前売り 10BP／1,000円　当日 15BP／1,500円	
出演者	林 弘樹(監督)、是永克也(俳優)、えなここスタッフ	
集客数	374名	

■ NPO法人 BEPPU PROJECT

プログラム名	BEPPU ART AWARD 2011　グランプリ受賞展 「別府地熱学消火器美術館」	プログラム写真
内　容	全国の40歳未満の若手アーティストを対象とした公募展にて、グランプリを受賞した山田健二氏の個展。別府に眠る地下道の写真を会場にて公開した。	
日にち	11月5日(土)～30日(水)　火曜日休廊	
時　間	12:00～19:00	
会　場	platform02	
料　金	無料	
集客数	871名	

プログラム名	ベップユケムリ大学 BEPPU PROJECT学部 現代アート入門　講座B	プログラム写真
内　容	各地の美術館やアートフェスティバルでの作品を例に挙げながら、「現代アートってなんだろう」という疑問を解消する講座を開催した。	
日にち	11月8日(火)、15日(火)、22日(火)、29日(火)	
時　間	19:30～21:00	
会　場	platform01	
料　金	各講座５BP／500円	
講　師	山出淳也 (NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事)	
集客数	のべ30名	

プログラム名	ベップユケムリ大学 BEPPU PROJECT学部 アートフェスティバルの楽しみ方	プログラム写真
内　容	別府、瀬戸内、越後妻有など、全国各地で展開されているアートプロジェクト。アートプロジェクトはなぜ生まれるのか、アートは地域に何をもたらすのかなどを各地の事例を踏まえながら検証していく講座を開催した。	
日にち	11月9日(水)、16日(水)、 23日(水・祝)、30日(水)	
時　間	19:30～21:00	
会　場	platform01	
料　金	各講座５BP／500円	
講　師	嘉原 妙 (NPO法人 BEPPU PROJECTスタッフ)	
集客数	のべ30名	

プログラム名	**ベップユケムリ大学 BEPPU PROJECT学部 大分の建築家 × BEPPU PROJECT**	プログラム写真
内　容	BEPPU PROJECTのリノベーション事業に携わった建築家を迎えてのクロストーク。建築家が何を見据え、どのような仕事を手がけてきたのかを聞き、建築への見識を深める講座を開催した。	
日にち	11月12日(土)、13日(日)、 26日(土)、 27日(日)	
時　間	13:00～14:30	
会　場	platform01、platform03、platform06、 BEPPU PROJECT事務所	
料　金	各講座５BP／500円	
講　師	塩塚隆生(株式会社　塩塚隆生アトリエ) 天野 茂(有限会社　建築工房チーム21) 光浦高史(DABURA共同主宰) 土田眞一(ASmATELIER)	
集客数	のべ29名	

プログラム名	**ベップユケムリ大学 BEPPU PROJECT学部 WEEKEND WORKSHOP 「三代広人生誕25年記念・大しゃしゃ、しゃせい大会」**	プログラム写真
内　容	参加者は別府の街を歩き、各々が卑猥に感じたものを絵に描いてもらい、最後に発表をするワークショップを開催した。	
日にち	11月20日(日)	
時　間	11:00～17:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
講　師	三代広人(アーティスト)	
集客数	７名	

プログラム名	**ベップユケムリ大学 BEPPU PROJECT学部 SELECT BEPPU ワークショップ 私が撮る別府の写真絵はがき**	プログラム写真
内　容	platform01を拠点に別府の町を散策し、デジカメや携帯のカメラで風景を切り取り、それをハガキに出力して別府の写真絵ハガキを作るワークショップ。完成した作品は今後SELECT BEPPUで別府の観光絵ハガキとして販売する予定。	
日にち	11月19日(土)	
時　間	13:00～15:00	
会　場	platform01	
料　金	５BP／500円	
講　師	平川 渚、宮川 園	
集客数	７名	

プログラム名	ポエトリーリーディング	プログラム写真
内　容	2008年から毎月最終土曜日の夜に開催される、参加者が自作の詞を発表し合うポエトリーリーディング。通常は上人ヶ浜で行うが、今回は特別に長覚寺で開催した。	
日にち	11月26日(土)	
時　間	20:00～21:00	
会　場	長覚寺	
料　金	無料	
集客数	20名	

プログラム名	おもちゃの部屋	プログラム写真
内　容	アーティストが考えた別府生まれのおもちゃを子どもたちに自由に遊んでもらい、今後の商品開発につなげていくという企画。当日は様々なおもちゃが集結した。	
日にち	11月28日(月)～30日(水)	
時　間	10:00～16:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
集客数	のべ170名	

■ NPO法人 べっぷ未来塾

プログラム名	ベップユケムリ大学 omachi de omatsuri　文化発表会	プログラム写真
内　容	登録有形文化財などの歴史的建造物の映像上映や、まちなかガイド、暮らしの工夫紹介・リユース作品の展示、出張SELECT BEPPU、ファンゴハンドエステやクイックマッサージなど、ベップユケムリ大学に参加する団体の文化発表会が開催された。	
日にち	11月23日(水・祝)	
時　間	11:00～16:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
参加団体	NPO法人 BEPPU PROJECT、NPO法人 別府八湯トラスト、 NPO法人 自立支援センターおおいた、NPO法人 べっぷ未来塾、陶子堂、APU落語研究会、門脇さゆり、スロートリップジャパンベップ、棚田里山景観研究所、けむリン、ごみゼロおおいた推進隊、別府エコヘリテージング実行委員会	
集客数	120名	

■ 別府♨レッグウォーマーズ

プログラム名	A級デラックスナイト ～あらゆる世代の一大レヴューショウ～	プログラム写真
内　容	別府に縁の深い北村成美氏を総合演出に招き、笑いあり涙ありのレヴューショウを上演。出演者はワークショップを経て参加した別府市民。	
日にち	11月12日(土)、13日(日)	
時　間	12日 15:00～16:00、19:00～20:00 13日 14:00～15:00、17:30～18:30	
会　場	永久別府劇場	
料　金	前売り 6BP／600円　当日 10BP／1,000円	
集客数	のべ176名	
備　考	**公開稽古 (講師：北村成美)** 日　時：11月1日(火)　17:00～19:00、 11月5日(土)　9:00 ～17:00 11月7日(月)～10日(木)　17:00～22:00 会　場：platform01、永久別府劇場 料　金：無料	

■ 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会、NPO法人 BEPPU PROJECT

プログラム名	混浴温泉世界シンポジウム 2011 「観光地型 文化創造都市・別府の実現を目指して」	
内　容	大分県別府市における「観光地型 文化創造都市」の実現を目指し、パネルディスカッションや市民フォーラムなど、各企画を通して文化芸術を核とした地域活性のあり方を考察した。	
日にち	11月3日(木・祝)～6日(日)	
集客数	のべ375名	
	「混浴温泉世界 2012」計画発表 2012年冬期に開催予定の「混浴温泉世界 2012」の計画発表を行なった。 日　時：11月3日(木・祝)　14:00 - 15:30 会　場：platform01 料　金：無料 ［プレゼンテーター］ 福谷正信 (別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員長) 芹沢高志 (別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」総合ディレクター) 山出淳也 (別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」総合プロデューサー)	

	アーティストプレゼンテーション(逐次通訳) 2012年冬期に開催予定の「混浴温泉世界 2012」参加アーティストの紹介を行なった。 日　時：11月4日(金)　18:00～20:00 会　場：platform01 料　金：無料 ［講演者］ チウ・ジージェ(アーティスト) ［進行］ 住友文彦 (別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」キュレーター)	
	「市民の創造性を活かした創造都市実現へ向けて」 講演者による基調講演や、各分野での事例紹介、別府市長もパネリストに交えてのパネルディスカッションを行い、市民の創造性を活かした創造都市実現についての議論が交わされた。 日　時：11月5日(土)　14:00～18:00 会　場：別府ブルーバード会館3階 料　金：一般 10BP／1,000円、学生５BP／500円 高校生以下無料 **基調講演** 近藤誠一 (文化庁長官) **事例紹介** 福地茂雄 (アサヒグループホールディングス株式会社 相談役／公益社団法人 企業メセナ協議会理事長) 佐々木 雅幸 (大阪市立大学 教授) 中村政人 (アーティスト／東京藝術大学准教授／3331 Arts Chiyoda総括ディレクター) **パネルディスカッション** ［ モデレーター］若林朋子 (公益社団法人 企業メセナ協議会シニア・プログラム・オフィサー) ［ パネリスト］近藤誠一、福地茂雄、佐々木 雅幸、中村政人、浜田 博 (別府市長)	
	市民フォーラム「観光地型 文化創造都市・別府の実現を目指して」 市民と観光地型 文化創造都市・別府の実現についてディスカッションを行った。 日　時：11月6日(日)　10:30～12:00 会　場：platform01 料　金：無料 ［モデレーター］ 山出淳也 ［ゲストコメンテーター］ 近藤誠一、加藤種男 (アサヒビール芸術文化財団 事務局長)	

■ 別府市美術館

プログラム名	別府市美術館　常設展	プログラム写真
内　容	福田 平八郎、村上華岳、梅原龍三郎、安井 曾太郎ら、日本を代表する画家達の日本画・洋画約40点を展示。また、郷土作家による絵画・竹工芸の展示なども併設。	
日にち	11月1日(火)～30日(水)　月曜定休	
時　間	9:00～16:00	
会　場	別府市美術館	
料　金	一般・高大生 1BP／100円、 小中学生 50円、小学生未満無料	
集客数	のべ269名	

■ 別府市立図書館

プログラム名	おはなしの会(キッズ)	プログラム写真
内　容	別府市立図書館が定期的に実施しているキッズ向けの、絵本の読み聞かせを開催。中にはクイズ形式での読み聞かせもあり、楽しそうに参加する子どもの顔が多く見られた。	
日にち	11月12日(土)	
時　間	14:00～14:30	
会　場	別府市立図書館	
料　金	無料	
集客数	15名	

プログラム名	おはなしの会(ベビー)	プログラム写真
内　容	手の込んだエプロンシアターに保護者の方の歓心を得た。また家庭で親子のスキンシップにもなるわらべうたも実施。	
日にち	11月16日(水)	
時　間	10:00～10:20	
会　場	別府市立図書館	
料　金	無料	
集客数	22名	

■ ポエムアート 木村三恵

プログラム名	フォトポエム展　～ココロの景色３～	プログラム写真
内　容	自作の詩と写真のパネル作品の展示。詩と写真をコラボレーションさせることにより、詩の持つ世界を更なる広がりを来場者に感じさせた。	
日にち	11月13日(日)	
時　間	11:00～19:00	
会　場	platform01	
料　金	無料	
集客数	70名	

■ 眞島竜男

プログラム名	アートとは何か？ in Beppu　眞島竜男 × 山出淳也	プログラム写真
内　容	ゲストと共にアートについて真正面から議論する公開トーク・イベント。今回はNPO法人 BEPPU PROJECT代表理事の山出淳也氏との対談を実施した。	
日にち	11月18日(金)	
時　間	14:00～17:00	
会　場	清島アパート	
料　金	５BP／500円　１ドリンク付き	
集客数	６名	

プログラム名	PEP in Beppu　～別府でPEP～	プログラム写真
内　容	2時間半に及ぶ完全一発撮りのビデオ作品『PEP』の上映後、参加者でそれについてディスカッションを行い、様子を撮影し更に作品にしていくという参加型イベントを開催した。	
日にち	11月19日(土)	
時　間	11:00～17:00	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
集客数	７名	

プログラム名	Battering Feast　～別府で「天ぷら」～	プログラム写真
内　容	10 × 10 × 20cm以内の食べ物以外のものなら何でも「天ぷら」にしてしまう、参加型イベント。参加者は自分が天ぷらにしてもらいたいものを会場に持ち寄った。	
日にち	11月23日(水・祝)	
時　間	13:00～16:00	
会　場	清島アパート	
料　金	８BP／800円	
集客数	10名	

■ 三代広人

プログラム名	「三代広人美術館」	プログラム写真
内　容	清島アパートの一室を使用し、三代広人氏のこれまでの作品とコレクションを展示した。	
日にち	11月3日(木・祝)～6日(日)、10日(木)～13日(日) 17日(木)～20日(日)、23日(水・祝)～27日(日)	
時　間	12:00～18:00	
会　場	清島アパート	
料　金	無料	
集客数	100名	

■ 明礬温泉協同組合

プログラム名	ここだったのか! 明礬温泉 ポストカードフォトコンテスト	プログラム写真
内　容	魅力あふれる明礬温泉の風景を題材とした写真を一般から公募し、入選者の作品を期間中展示し、来場者に人気投票を行った。	
日にち	11月10日(木)～20日(日)	
時　間	8:00～18:00	
会　場	明礬 湯の里	
料　金	無料	
集客数	のべ1011名(観光客を含む)	

■ みんな家族

プログラム名	知ろう! 考えよう! 伝えよう! 私たちの暮らし。	プログラム写真
内　容	“未来へのメッセージ”をテーマに、暮らしやエネルギーについての考えを、若い世代の視点から、絵画や手作りの洋服展示、音楽、映画上映を通して伝えていこうという企画。	
日にち	11月28日(月)～30日(水)	
会　場	永久別府劇場	
集客数	101名	
プログラム詳細	**「風天百笑画家 北原慎二の絵画展」** 全国各地を放浪し、農業を学びながら日々の暮らしで出会った小さな出来事を、優しいまなざしで描く北原慎二氏の絵画展。 日　時：11月28日(月)～30日(水)　12:00～18:30 料　金：無料 **「学生から見る、“今の暮らし”写真展」** 次の世代を担う若い世代の視点からとらえた“今の暮らし”の写真展。国内から国外まで、各地で撮りためた写真が並んだ。 日　時：11月28日(月)～30日(水)　12:00～18:30 料　金：無料 **「もんぺと裂き織りベスト、着ています。」** 日本の暮らしに根付いた服 - 野良着。着なくなった古着や糸くずを利用して裂き織りという織りの技法で、もんぺやベストなどの野良着をつくり、展示した。 日　時：11月28日(月)～30日(水)　12:00～18:30 料　金：無料 **「音楽ドキュメンタリー映画『Canta! Timor』上映会」** 東ティモールを舞台に、偶然出会った少年が教えてくれたある歌をきっかけに物語が進んでいく、私たちの暮らしや平和について考えさせられるドキュメンタリー映画の上映。 日　時：11月29日(火)　18:30～20:30 料　金：前売り 10BP／1,000円　当日 15BP／1,500円 **「baobab 暮らしconcert」** ケルト音楽を足場にトラッドからポップまで奏でる、アコースティック兄妹ユニット、baobab。彼らの手仕事や農や食など、日々の暮らしの中から生み出さる“baobabの音楽”を映像と共に奏でた。 日　時：11月30日(水)　19:30～21:30 料　金：前売り 15BP／1,500円　当日 20BP／2,000円 おみやげ付き	 

■ 山中カメラ　三代広人

プログラム名	「ゼットカメラ・ジャパン」	プログラム写真
内　容	音楽、写真、映像が融合した「アダルト」な奇天烈パフォーマンス。飴まきなど遊び心ある演出が見られた。	
日にち	11月25日 (金)	
時　間	19:00～20:30	
会　場	永久別府劇場	
料　金	５BP／500円	
集客数	30名	

■ 山本 健

プログラム名	<<ceiling>>	プログラム写真
内　容	築100年の長屋の中に、仮設の空間(天井)をつくりだし、鑑賞者がその中を這っていく体験型の展示作品。天井裏の別世界を体験できる展覧会を開催した。	
日にち	11月16日(水)～18日(金)	
時　間	10:00～19:00	
会　場	platform05	
料　金	無料	
集客数	54名	

■ 指輪ホテル

プログラム名	洪水 ～Massive Water～	プログラム写真
内　容	指輪ホテルがイギリスでつくり上げたソロ作品に、作曲家でありギタリストであるSKANK／スカンク氏を迎え、二人のゾンビによって奏でられた作品。日常のすぐ隣にあるパラレルワールドへ、見る者をいざなっていった。	
日にち	11月19日(土)、20日(日)	
時　間	19日 19:00～20:00、20日 17:00～18:00	
会　場	永久別府劇場	
料　金	前売り 20BP／2,000円、当日 25BP／2,500円	
集客数	63名	

■ 油布 季良美(カラーコミュニケーションOITA)

プログラム名	親子でハッピーカラーアート♪
内　容	大きな紙にカラフルな素材を使って、親子で触れあいながらカラーアートを楽しむワークショップを開催予定であったが、参加者の体調不良によるキャンセルなどがあり、実施する事ができなかった。

■ 吉松文男&直子

プログラム名	「うちの猫らといとこの豆ズ」 写真展@トキハ別府店	プログラム写真
内　容	すべて保護した11匹の猫らとのおかしな日常の写真展。里親会や保健所の猫達のについてや、現在進行中の野良猫を増やさないための「3つ編みプロジェクト」の展示、物販も行った。	
日にち	10月29日(土)～11月3日(木・祝)	
時　間	10:00～19:00、　最終日のみ　10:00～16:00	
会　場	トキハ別府店１階 センターモール	
料　金	無料	
集客数	のべ800名	

■ 芳村 孝次女

プログラム名	芳村 孝次女「長唄(細棹三味線)のいろは」	プログラム写真
内　容	長唄のお話と共に、参加者も細棹三味線の演奏体験ができる、体験型演奏会を開催した。	
日にち	11月22日(火)	
時　間	13:30～15:00	
会　場	聴潮閣 高橋記念館 別館	
料　金	25BP／2,500円	
集客数	17名	

■ レイジーシンデレラ

プログラム名	ドレスカフェ	プログラム写真
内　容	本番さながらのメイクと、白いウェディングドレスを身に纏い、プロのカメラマンに記念撮影してもらう体験型企画。親子での参加も見られた。	
日にち	11月20日(日)	
時　間	10:00～16:00	
会　場	聴潮閣 高橋記念館	
料　金	30BP／3,000円	
集客数	67名	

■ ワンヤマ・ユジーン

プログラム名	My Little World	プログラム写真
内　容	ケニアから日本に来て10年になるワンヤマ氏。彼が日頃目にするものや、出かけた先で見つけた、何気ない日本の「美」を撮った写真展を開催した。	
日にち	11月5日(土) 、6日(日)	
時　間	10:30～19:00	
会　場	トキハ別府店３階 連絡通路	
料　金	無料	
集客数	80名	

(3)　広告換算

新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などでのメディア掲載件数は、91件であった。(『ベップ・アート・マンス 2010』は61件)。主に地元メディアへの掲載であったが、一部全国紙への掲載もあった。

広告換算は、**77,094,105円**であった。

(4)　実施記録から見る成果と課題

「ベップ・アート・マンス 2011」では前年に引き続き、プラットフォーム型事業として、文化芸術活動に取り組む団体・個人から広く企画を募り、より多くの人が事業に参画できる仕組みを採用した。2010年には27の団体・個人による43プログラムを実施したが、「ベップ・アート・マンス」２年目となる今回は57団体・個人、87プログラムと参加者は倍増した。幅広く市民も参画できる企画にしてほしいという、「混浴温泉世界 2009」に際して寄せられた市民の声に対する取り組みが、着実に進展しているものと考える。

このことを主催者側の視点から見ると、文化芸術活動を行う多様なプレイヤーの存在を知る機会がさらに広がったといえる。その意味で、今後の事業展開に向けて、これらの団体・個人との協力関係を構築・強化することができたことも、今回の事業の大きな成果であったといえる。

プログラムの多くは、platformをはじめ中心市街地で開催された。これによって中心市街地の用途がいっそう拡大されたといえる。それは、文化芸術活動の場としての中心市街地の可能性が拓かれたことを意味する。それは単に作品を鑑賞するための場としてだけでなく、市民の日常的な文化芸術活動の拠点としての中心市街地の可能性が拓かれたことも意味する。

第４節　クーポン型金券「BP」の取り組みについて

(1)　「BP」の取り組みについて



「ベップ・アート・マンス 2011」では、有料プログラムへの参加、加盟の飲食店や温泉施設などで使用する事が出来るクーポン型金券「BP」を昨年と同様に使用した。各プログラムごとの連携による集客の向上や、プログラムだけでなく、まちを楽しんでもらう為の仕掛けとして使用した。

昨年度開催した「ベップ・アート・マンス 2010」では、プログラムへの参加での使用が少なかったため、今年度はインフォメーションセンターでのプログラムチケット購入の際には必ず「BP」を使用してもらう事や、いくつかのプログラムに関しては当日に会場で「BP」を販売するなど、より多くの人々に「BP」を使用してもらう事を心がけた。

また、使用出来る加盟店舗の数も、昨年は中心街のみで24店舗・施設であったが、今年度からはエリアを拡大し、店舗数も101店舗と大幅に増やした。

販売冊数：2,276冊 = 13,656 BP　(昨年度の販売冊数：460冊 ＝ 2,760 BP)
※2011年10月17日(月) - 11月30日(水)までの販売数。

加盟店舗数：101店舗・施設　(昨年度の加盟店舗数：24店舗・施設)
加盟店舗数内訳

2010年度	施設種類	2011年度
20店舗	**飲食店**	78店舗
4施設	**温泉施設**	7施設
0店舗	**その他ショップなど**	16店舗

使用枚数：10,413 BP　(昨年度の使用枚数：3,437 BP)　　※1 BP＝100円換算
使用用途内訳

2010年度	施設種類	2011年度
1,738 BP	**有料プログラム**	6,921 BP
1,653 BP	**飲食店**	3,047 BP
46 BP	**温泉施設**	82 BP
0 BP	**その他ショップなど**	363 BP

(2)「BP」の成果と課題

「BP」は、「ベップ・アート・マンス」の有料プログラムへの参加、加盟飲食店や温泉施設、ショップなどで利用できるクーポン型金券として導入したものである。これにより、プログラム間の連携による集客力向上とともに、来場者に別府のまち歩きも楽しんでもらうことを目指した。

「BP」を使用できる加盟店舗の数は2010年の24店舗から2011年には101店舗へと４倍に増えた。「BP」の販売枚数も、2,760BPから13,656BP(1BP＝100円換算。ちなみに６BPを１枚綴りにしたチケットの販売冊数は460冊から2,276冊)と５倍に増えている。

これにともなって、実際の使用枚数も3,437BPから10,413BPへと３倍に増加した。内訳を見ると、有料プログラムでの使用が４倍(1,738BP→6,921BP)になったのが大きい。有料プログラムでの「BP」使用については、実施者アンケートで実施者側の意見を聞いたが、2010年の場合「大変良い＋良い」の割合が86%、「良くない」０%であったのに対して、2011年にはそれぞれ69%、13%と評価が低下した。かかる回答の背景については、2010年は実施者に対して、有料プログラムへの支払方法として「『BP』も使える」と周知した程度であったのに対し、2011年には「『BP』使用を推奨」したことが大きいと推察される。前回は実施者側の「BP」に対する意識がそもそも希薄であった分、ネガティヴな意見も聞かれなかったのに対して、今回は使用頻度が上がったことで、不満・要望がはじめて顕在化したものと推察される。

「BP」は有料プログラム以外にも加盟飲食店・温泉施設・ショップで使用可能であり、その使用枚数は倍増(1,699BP→3,492BP)した。有料プログラムでの使用が広がったことで、流通する「BP」の総量が増えるとともに、加盟店舗も４倍(24店舗→101店舗)に増えたことが主な要因と考えられる。ちなみに、「BP」６枚綴りセットのうち５BPをプログラム用に使った来場者は、残る１BPを飲食店などでの支払いに充当する。とはいえ通常、１BP(100円)では飲食物販に足りないため、来場者は「BP」に足して現金を支出することになる。この効果を定量的に捉えるのは難しいが、「BP」は、実際の使用枚数よりも大きな消費を誘発していると評価できよう。一方、加盟店舗での使用枚数が倍増したとはいえ、来場者アンケートによれば、店舗で「BP」を使用した来場者の割合は2010年22%、2011年28%と２～３割に止まっており、さらに使用を拡大する余地があると考えられる。

（注）「ベップ・アート・マンス」会期中における「BP」の販売枚数(2010年2,760BP、2011年13,656BP)と使用枚数(2010年3,437BP、2011年10,413BP)には乖離がある。これは、「BP」は会期外にも、市内のアートイベントなどで使用されるためである。2010年の場合、「ベップ・アート・マンス 2010」会期前から「BP」が一定程度流通していたため、会期中販売分以上に使用が多かった。一方で2011年の場合、会期中に使い残した「BP」が生じたことから、販売枚数が使用枚数を上回ったと考えられる(今回の『BP』の使用期限は2012年１月中旬のため、『ベップ・アート・マンス 2011』終了後にも加盟店舗などで使用されている模様)。

課題

以上のように、「BP」の使用頻度は水準としてはまだ低いものの、使用枚数は増加傾向にあり、実施者サイドの「BP」への肯定的評価の割合も７割に及んでいる。

一方で、「BP」の使い方や売っている場所が分かりづらいとの意見も寄せられた。このため、今後については、「BP」の利用方法の周知徹底、利便性の向上(『BP』販売場所の増加など)に努め、「BP」の普及をさらに進めていくことが重要である。

第５節　収支実績書

当事業の収支実績書は下記である。収入・支出ともに、昨年度と比べ約20%増となった。

収入

費目	金額	備考
助成金	￥1,099,821	委託　平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業 助成　財団法人文化・芸術による福武地域振興財団（一部）
協賛金	￥390,000	地場企業などからの協賛金
クーポン型金券「BP」	￥1,170,760	「BP」売上げや手数料など
保証金預り金	￥270,000	実施者からの保証金預り
提供会場預り金	￥188,500	提供会場使用に関する預り金
負担金	￥1,000,000	別府市の負担金
雑収入	￥100	
合計	**￥4,119,181**	

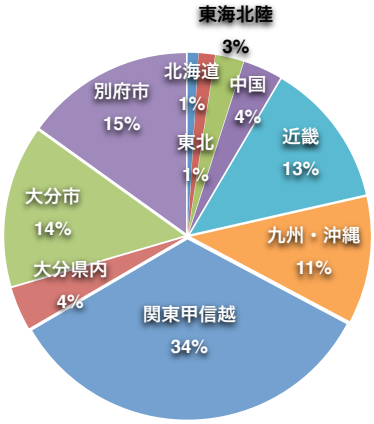
支出

費目	金額	備考
人件費	￥584,000	インフォメーションアルバイト、ボランティア代など
消耗品費	￥27,797	インフォメーションブース設営材料費など
クーポン型金券「BP」	￥1,049,680	実施者や加盟店への「BP」清算など
広報物作成費	￥1,124,096	広報物の作成・印刷費など
保証金返却	￥270,000	実施者への保証金返却
提供会場使用料金	￥737,000	提供会場管理者への支払い
通信・郵送費	￥208,580	チラシ郵送代金など
イベント保険加入料	￥116,768	イベント保険料
雑費	￥1,260	振込手数料など
合計	**￥4,119,181**	

第６節　運営面の検証

(1)　実行委員会事務局サポートについて

「ベップ・アート・マンス 2011」では、公募により集められたプログラムに対し、事務局より下記の６つのサポートを行った。



① パンフレットやWEBサイトで実施プログラム案内

広報業務の一部代行として、ポスター、パンフレットを作成し、全国に配布した。右図は、全国の配布先地域の割合である。県内を中心に、全国様々な地域に配布した。

・ポスター (A１、カラー)：2,000枚
・パンフレット (A５、カラー、64ページ)：20,000冊

当初、10月１日をパンフレットの納品日にしていたが、事務局の作業の遅れなどから、納品が10月14日に遅れてしまった事が反省としてあげられる。

パンフレット表紙



パンフレット中面

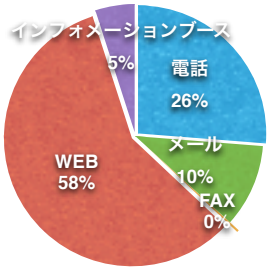


② 受付・連絡先窓口などの事務局業務

実施者が希望する場合、各プログラムの予約受付や管理、プログラムの案内などを事務局が代行した。予約は、「電話」「メール」「FAX」「WEBサイト」「インフォメーションブース」にて受け付けた。「WEBサイト」は、NPO法人 ハットウ・オンパクの構築したシステムを使用した。

予約受付を希望したプログラムの総入場者数は2,928名のうち、事務局にて予約を行ったのは433名と、約14%でしかなかった。

また、右図は予約手段の内訳で、約６割の方がWEBサイトからの予約である事がわかる。



③ プログラムチケットの販売

当事業のインフォメーションブースにて、有料プログラムのチケットの販売を、手数料なしで行なった。インフォメーションブースでは、10プログラム450枚の前売りチケットを委託されたが、インフォメーションブースでの販売数は73枚であった。

④ 会場の無料提供 (指定会場のみ)、ディスカウント会場の紹介

昨年度に引き続き、実施者が無料で使用することができる提供会場と共に、今年度からの新たな取り組みの一つとして、通常よりもディスカウント料金で使用する事ができる民間の提供会場も用意した(料金の１部を事務局が負担)。別府市内のギャラリーや、大型百貨店の内部、各platform、寺院など、多くの方々のご協力により、22カ所を安価で提供していただく事ができた。ただし、提供会場の情報公開遅延の為、実際に使用されたのは14会場であった。

提供会場一覧	
亀の甲公園	Harbors(カフェルーム)
紙屋公民館	P3/BEP.lab
茶房たかさき	冨士屋Gallery一也百 (ギャラリースペース)
サロン岸	platform01
スパホステル カオサン 別府はまゆう 別館	platform03 まちなかカフェ
長覚寺	platform05
聴潮閣(蔵)	永久別府劇場
ホテルニューツルタ１階	トキハ別府店１階 大屋根の下
トキハ別府店３階 フリースペース	冨士屋Gallery一也百 (ホール)
トキハ別府店３階 連絡通路	別府ブルーバード劇場
トキハ別府店４階 連絡通路	Harbors(ライブスペース)



映画館「別府ブルーバード会館」で行なわれたコンサート



百貨店「トキハ別府店」で開催されたワークショップ



長覚寺で行なわれたポエトリーリーディング



築100年の長屋「platform05」でのコンサート

⑤ 事務局による企画構築のサポート

今年度から、実施者が希望する場合、プログラム実施までに必要な企画構築のサポート(会場構成に関する相談、個別広報に関するサポートや企画内容に関するアドバイスなど)を事務局が行なった。ただ、具体的にどこからどこまでサポートを行なうという内容を明記できていなかった為、サポートを依頼する実施者は少なかった。

⑥ 他団体との交流機会の創出

実施者同士が交流し、新たな取り組みが生まれる事を目的とし、数回に渡り交流できる機会を提供した。

参加団体交流会＆記者発表

「ベップ・アート・マンス 2011」の記者発表と交流会を開催した。

日　時：10月1日(土)　13:00〜13:30　記者発表
　　13:45〜15:00　参加団体交流会
場　所：platform01(別府市元町８-３ ソルパセオ銀座商店街内)
参加団体数：30団体・個人

混浴温泉世界シンポジウム 2011 「ベップ・アート・マンス 2011」参加プログラムの紹介」



11月3日(木)〜6日(日)にかけて開催された「混浴温泉世界シンポジウム 2011」で、実施者の紹介を行なった。

日　時：11月5日(土)　14:10 - 14:30
場　所：別府ブルーバード会館
参加団体数：20団体・個人

「ベップ・アート・マンス 2011」 報告会・交流会



「ベップ・アート・マンス 2011」の全プログラム終了後に、ディスカッション形式の意見交換会を行なった。またその後には、交流会として食事をしながらの交流を行なった。

日　時：12月17日(日)　11:30 - 13:00 報告会
　　13:00 - 14:30 食事会
場　所：中華園
参加団体数：　報告会　14団体・個人
　　食事会　９団体・個人

［報告会の内容について］



14団体を２つのグループに分け、付箋に「ベップ・アート・マンス 2011」に参加しての感想や要望、次回への課題などを自由に書いてもらい、それをもとに各グループ内でディスカッションを行った。次回以降の開催に向けての意見を聞く事ができると同時に、実施者間および実施者と事務局間の交流を持つことができた。

以下に、報告会で出た意見を、「会期前、会期中、会期後」に分けて記載する。

■ 会期前

タイトル、開催時期について

・「ベップ・アート・マンス」というネーミングが横文字で、少し近寄りがたい印象を受ける。サブタイトルやマスコットを広く市民から募集したら、市民が親しみやすくなるのではないか。
・今までは文化・芸術に関するプログラムであれば自由に開催可能であったが、ひとつのテーマを設けてプログラムを募集してもおもしろいのではないか。
・開催時期の11月は他イベントも多く、イベントが重なる事が多かった。

事務局とのやり取りについて

・事務、広報、企画など誰が何を担当しているのか混乱する事が多かったので、明確にしてほしかった。
・提出物の量などが予想以上に多かったため、次回以降はどの程度の資料提出や、事務局とのやりとりが必要なのか、細かい流れを事前に伝えるべである。
・事前に作品のファイルを見て、それを受け入れるか、また、どこで展示させるのかを事務局で判断して欲しい。

広報活動について

・地元や近郊の大分市にはまだ知らない人が多く、一部のみの盛り上がりに感じた。
・ボランティアなどを募って、市外への広報や情報発信など広報活動がより活発になると良い。
・部分的に行うのではではなく、「ベップ・アート・マンス」という大枠を前に出して、それを入り口として各プログラムを広報していくと良いと思う。プログラム詳細が決まる前に、「『ベップ・アート・マンス』開催」の広報をすると効果的である。
・別府駅やバス停などにバナーやポスターを貼るなど、公共施設への広報物設置をもっとすべきである。

広報物について

・カラフルで目立つという効果はあるが、ただタイルが広がっているだけで、どういう意図があるのかが分からない。ポスターやパンフレットの端に意図を記載しても良いのではないか。
・商店や街中にポスターを貼って、認知度は去年より得られたように感じる。
・パンフレット用の資料作成指示から締め切りまでの期間が短すぎたので、次回以降はもっと余裕を持たせてほしい。
・サイズは、持ち歩くには丁度良いサイズだったが、文字が小さくて読みにくく、読む気がしなかった。次回以降プログラム数も増える可能性があるのであれば、パンフレットのサイズと文字の大きさを再考する必要がある。

■ 会期中

クーポン型金券「BP」について

・実施者が「BP」について理解できていなかったので、 どのような使い方があるのか、実際どのようにお客様とやりとりするのかを事前にデモンストレーションしてほしい。
・商店だけではなく、「BP」をデパートでも使えるようにしてほしい。
・現金500円支払って実質600円分楽しめるという簡易的な説明をしている人がいたが、100円分はイベントの参加にしか使用できないので、この説明だとお客様を勘違させる場合が多い。
・「BP」をどこで売っているのかわからないので、もっと主要公共施設で販売してほしい。

広報について

・事務局の広報に頼っていた面もあり、実施者自身が積極的に自分のプログラムをPRすべきだと感じた。
・それぞれのプログラムで、他のプログラムのチラシやパンフレットを手渡しすることで、かなりの集客につながったので、来年は積極的に各実施者が行なうべきである。

■ 会期後

「ベップ・アート・マンス」を継続するにあたっての意見

・ ５年後、10年後にこの結果が見えてくると思うので、継続してやっていくことが大切である。
・各実施者の主体性が重要である。
・次世代を担うのは若い世代なので今後は若い人や子どもが主役となって開催されることを期待している。

実施しての感想

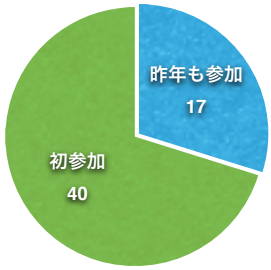
・中高年の方が口コミで評判を聞いていろんなプログラムを巡り、町を回遊していた。
・各実施者のプログラムで、それぞれの独自の世界が広がっており、多様性を感じることができた。
・永久別府劇場での各プログラムは素晴らしかった。プログラム自身が持つ力ももちろんだが、永久別府劇場がプログラム実施会場として持つ能力を改めて体感した。次回以降も利用させてほしい。
・自分のプログラム実施に精一杯で、他のプログラムに参加できなかった。次回はお客さんとしても参加したい。

(2) 実施者からの声

各プログラム終了後、実施者に対し、アンケートを行なった。

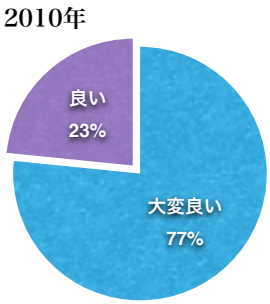
「ベップ・アート・マンス 2011」について

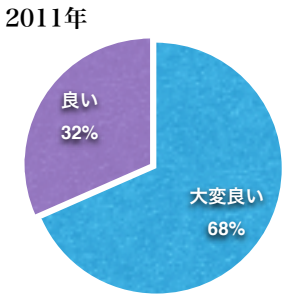
□ 「ベップ・アート・マンス」は昨年度から開催しております。昨年もプログラムを登録されましたか？



今年から初参加の団体は40団体で、全体の約７割が初参加となった。

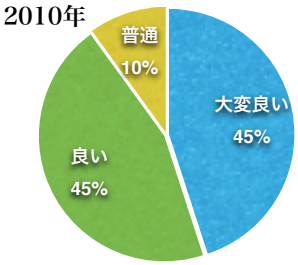
□ このような取り組みをどう思われますか？

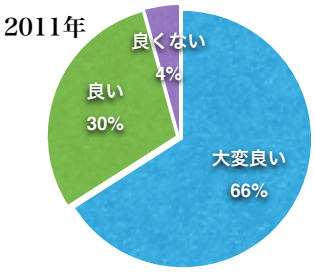




【大変良い・良い】
・様々なプログラムが同時に開催されているため、いくつかのプログラムをまわって楽しんでもらえるので良い。 常にどこかで何かをしているというワクワク感がある。
・別府や大分で活動している作家やクリエーター、地元の方など、様々な方と別府のまちを楽しみながら出会い、つながることができるのが楽しい。
・まだ参加していない活動は沢山あるので、別府の文化活動が全て見渡せるくらいもっと参加してほしい。
・温泉観光地という「観光」の文化と共に、「音楽・芸術」の文化が平行して発展していくべき。
・世代を超えての取り組みが素晴らしいと感じると共に、別府を誇りに思う。
・参加者にお得感があり、アートを通して日頃知り得ない別府の情報を入手し、今までと違った観光のあり方や、文化を体感できる。
・アーティストだけが特権的に表現者なのではなく、市民に表現する場を提供するという考え方が良い。
・子どもたちが作品を出品することで、少しでも関心を持ってくれると良い。
・東京を中心に活動しており、九州にネットワークを持たないものでも、プロジェクトを実施できるオープンな受け入れ態勢があって良い。
・行政、地元団体、アーティストなど、様々なレベルの文化活動を支える人々との出会いがあり、今後も、継続的に別府および九州で活動を展開するためのネットワークを築くことができる。
・事務局が制作支援や広報協力をしてくれるおかげで、遠方の実施者でも企画を実施しやすい。
・アートを定着させるには、継続的でかつ地元の方々がたくさん参加できるイベントが重要だと思うので、毎年この時期がアートマンスということを広くアピールするために、継続して実施するべきだと思う。

□ 参加されてよかったと思われますか？

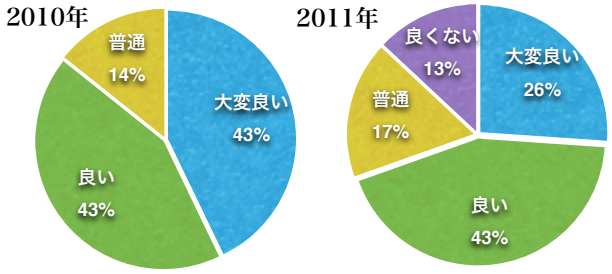




【大変良い・良い】
・普段はあまり発表の場がないので、実施者自身がとても喜んでいる。
・巨大な文化祭という雰囲気がとても良い。
・市内各所での開催は、実施者のオリジナル性が重視されて参加しやすい。来場者も選択肢が沢山あり楽しめたと思う。
・集客やパンフレットでのPRなど、広報の協力をしてくれる事が心強かった。
・大変貴重な経験ができた。普段の生活では出会う事のできない人たちと多く出会う事ができた。
・個々では現せない、アピールできない部分が「ベップ・アート・マンス」によってハイレベルに化けた感じがする。
・きっかけがないと別府での公演は実施できなかった。また、新しいお客様と出会えた。

【良くない】
・別府の知り合い何人かに聞いたが、知らない人が多かった。

□ 有料のプログラムを実施された方にお聞きします。今回、支払いをクーポン型金券「BP」でも行えるようにしましたが、いかがでしたか？

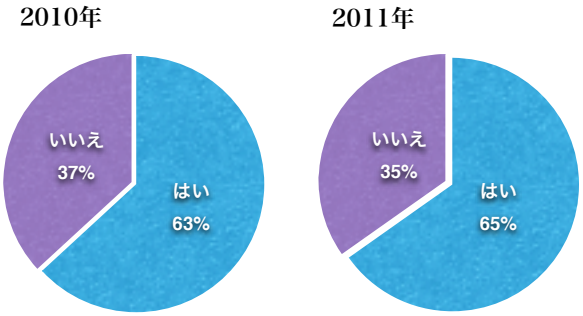


【大変良い・良い】
・「BP」自体は良いが、換金が若干面倒だった。
・５BPで実施したプログラムでは、１BPを他のプログラムや加盟店で使用してもらうことができ良かった。
・もっと「BP」販売箇所が増えてほしい。事務局が販売に回ってくれると助かる。
・利用者にメリットがあるためか、予想以上に有料プログラムの支払いに「BP」を使用した人が多かった。今回のように現金と併用であれば事前に「BP」の準備もしなくてよく、実施者としては楽であり、特に混乱もなかった。
・２割増で日頃よりお勧めするのが楽だった。余った「BP」を有効活用して別府の魅力を感じて欲しい。
・「BP」で「ベップ・アート・マンス」に参加することを楽しんでいるお客さんがいる、という印象を受けた。それにより、お客さんが文化活動に参加する意欲の促進に繋がっているように思った。

【普通】
・「BP」よりも現金での参加が多かった。
・「BP」について詳しいスタッフがいないと取り扱いは厳しい。実施者の中でも「BP」の使用方法が共有できてなかったことがある。事前レクチャーなどが必要だと思った。

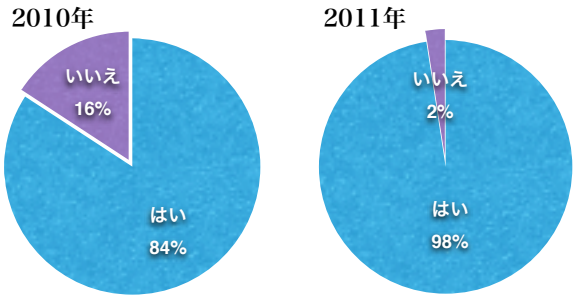
【良くない】
・まだ「BP」の利用方法が浸透してないように感じた。アート専用券がプログラムで使用できないと勘違いしていた実施者もいた。
・わざわざ「BP」を買わないといけないというのが、ややこしく感じた。

□ 他の団体・個人が実施するプログラムに参加されましたか？



昨年度と同様に、約６割の実施者が他の実施者が企画するプログラムにも参加している事がわかる。

□ 「ベップ・アート・マンス」は来年も開催する予定です。また参加したいと思われますか？



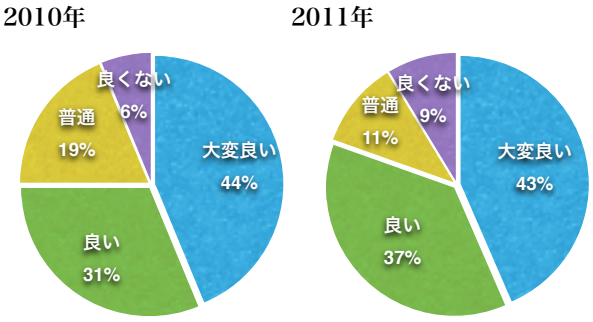
【はい】
・清島アパート内のみでのプログラム実施だったため、違った場所を利用して実施など、企画を考えたい。
・町をより楽しめるし、人と出会えて楽しい。
・継続することに意義があるし、継続しないと見えないことがある。
・提供会場が無料で使用でき、広告や予約受付けを代行してくれるのは魅力的である。
・いろいろな視点からコミュニケーションをとれる。

・別府を拠点に九州地域での活動をもっと展開したい。
・自然に協同作業ができ、パートナーシップが倍増する効果がある。
・初めての参加だったが、予想以上の反響に驚いている。

【いいえ】
・今の事務局の方針ではなんとも言えない。

事務局業務について

□ **事務局の対応はいかがでしたか？**

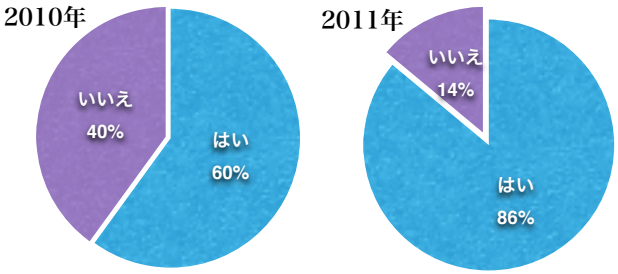


【大変良い・良い】
・間違いがあっても敏速丁寧、謙虚に対応してくれ、大変気持ちがよかった。
・メールと電話でのやりとりであったが、とても分かりやすかった。
・備品貸出しなど迅速に対応してくれた。
・パンフレットを配布して頂いたり、開催中何度も足を運んで頂いた。

【普通】
・申し込みがないイベントの対応についてもっと考えるべきである。
・丁寧な対応だったが、締め切り間近の連絡が多かったので、もう少し余裕が欲しかった。

【良くない】
・他のイベントの営業方針や、公募展などの応募パンフレットを参考資料として市場調査した方が良い。
・パンフレットで清島アパートの自分のイベントにまとめられたこと、BEPPU PROJECTのメールマガジンでも告知されていなかったこと、ツイッターで他のイベントと告知の量に差をつけるのは気分が良くない。
・担当者が事務局内に複数人おり、同じ説明を何度も行なわなければいけない事があった。
・企画構築や広報のサポートが特典にも関わらず、事務局から企画や広報についての事前質問がないのはおかしい。
・地元以外で実施者を募るのであれば、会場の下見ツアーを行なった方がいい。

□ **今回、事務局が一部広報業務を代行し、記者発表、全体プレスリリースの作成、HPの作成、パンフレットの作成等を行いました。効果があったと思われますか？**

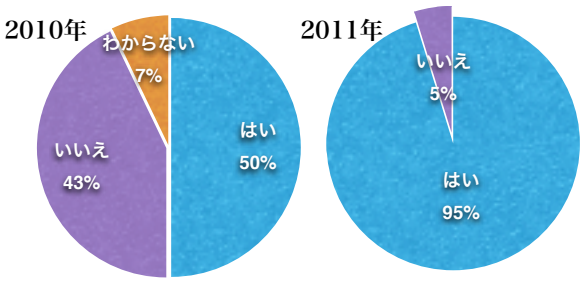


【はい】
・前回に比べ「色々な場所でチラシを見た」という方や、目的のプログラムを決めて行動している方が多く、流れを感じた。
・パンフレットのおかげで、地元の方、観光客、アート関係者など、沢山の人にプログラムを知ってもらった。
・お客様に「新聞で見た」「HPを見た」「ポスターを見た」と多く言われた。
・パンフレットやポスターを貼っているお店の人がアートマンスについて話してくれ、嬉しかった。
・自分のプログラムがニュースに流れたのを観て、今後の励みとなった。
・HPはプログラム実施後でも見ることができるので、次回への興味につながる。
・パンフレットが立派だった。写真や校正が素晴らしくお渡しした皆様に喜んでいただいた。
・遠くから来るものとしては、助かったし効果があったと思う。

【いいえ】
・来場者が少ない。
・告知されて無いに等しい。
・イベントに関して、ネットからの申し込みは年齢層がかたよる可能性がある。
・パンフレットが銀行の窓口に山積みになっていて、誰も手に取ろうとしていなかった。表紙にもう少し工夫が必要。
・パンフレットの配布場所をアート関係者だけではなく、 もっと多くの人の目に触れる場所にするべき。

□ 今回、事務局が受付業務の代行、チケット販売の協力を行いました。効果があったと思われますか？

【はい】
・効果というよりは、タイムリーに参加者に対応できる点で大変良かった。個人では別の仕事もしているため、即対応が不可能である。
・コンピューター上で管理していたので安心して予約委託ができた。お客様も事務局で予約している方が多かったので、分かりやすかったと思う。実施側とお客様の双方で効果があったと思う。



・Webでイベント参加手続きがスムーズにできた。
・事務局からチケットを買った方で、２日間連続で来てくださった若い方がいらした。県外を拠点にしており、別府で舞台芸術に興味のある人を見つけるのは大変なので、効果はあると思う。
・受付代行の方法も実施者のやりやすいように対応してくれた。

【いいえ】
・事務局を通しての予約がなかった。

□ 今年度から、無料もしくはディスカウント料金で使用できる民間の提供会場を用意しました。このような取り組みをどう思われますか？

【良い】
・もっと町のいろいろな場所で開催されたらおもしろいし、会場が増える事で「ベップ・アート・マンス」が別府の町に根付く事を期待している。
・「この会場で何をしようか・・・」と、イベントを企画する１つのきっかけになった。
・会場費が安くなる分、企画にお金をかけることができるし、実施者も会場を借りやすくなるので、企画の充実や参加者の増加につながり、大変良いと思う。有料会場であれば使用しなかったと思う。
・会場が増えると会場間を移動しながら観て回る楽しさがある。借りる人は会場の選択肢が増え、貸す人も人が訪れることで「場」と「出逢い」が生まれる。来年も取り組んでほしい。
・地域に「資源」としてある会場を使用することで、地元の人や所有者に感心を持ってもらえるきっかけになる。また、良い意味で適度にアート色が薄れる可能性がある。
・「いつもは入られない場所に行くことができた」と、喜びの声があった。
・こういった提携の枠組みがなければ、参加は不可能であった。

【課題】
・使用日程がバッティングした場合は抽選という方法をとっているが、今後は展示内容で相応しいと判断するものをある程度割り振ってほしい。それでも決まらなかった場合に抽選にしたらどうか。また、日程などで競合する場合は、選考結果の透明性や抽選等の公平性が必要だと感じた。
・提供会場を分かりやすくデータベース化して欲しい。せめて応募書類提出前にWEBで全会場リストを見たかった。
・提供会場の数が少ないように感じた。そのため、ひとつのプログラムの会期が短い期間でしか設定できない／設定せざるを得ないのはもったいないように感じる。

(3)　運営面の検証総括

①「ベップ・アート・マンス 2011」に対する実施者の評価

前回の「ベップ・アート・マンス 2010」に実施者として参加したのは27団体・個人であったが、このうち約６割にあたる17団体・個人が今回も継続して参加した。さらに、新たに40者が初参加を果たすなど、実施者の裾野は広がりを見せている。

また、実施者の６割強は、他の実施者が企画するプログラムに鑑賞者として参加しており、「見る側」と「作る側」の垣根を越えた交流が生まれつつあることが窺える。

「ベップ・アート・マンス 2011」に対する実施者の満足度は(参加して『大変良い』＋『良い』の割合)96%と高く(2010年90%)、次回も参加したいとする実施者の割合も98%と高い(2010年84%)水準になった。

②事務局業務に対する実施者の評価

事務局業務に対する実施者の満足度(『大変良い』＋『良い』の割合)は、2010年75%、2011年80%と向上している。個々の業務を見ても、広報業務代行に効果があったとする回答が増加(2010年60%→2011年86%)したほか、受付業務代行、チケット販売協力についても同様(2010年50%→2011年95%)の結果となった。

③課題

事務局業務は、前年の「ベップ・アート・マンス 2010」の経験からの習熟もあって、広報・受付・チケット販売などの各業務において前回よりも実施者の満足度は高いものとなっている。この結果として、「ベップ・アート・マンス 2011」全体に対する実施者の評価も高いものとなった(『ベップ・アート・マンス』の取り組みを『大変良い』＋『良い』とした割合100%)。しかしながら、実施者アンケートや『ベップ・アート・マンス 2011』終了後の報告会・交流会で出された意見を仔細に見ていくと、事務局業務についてさらなる改善を求める意見も散見される。

まずスケジュール面で、実施者への提供会場の情報公開や、パンフレットの頒布時期の遅れが指摘されている。想定以上に多数の実施者に参加をいただけたのが一因ではあるが、かかる遅延は、実施者の企画内容の質や「ベップ・アート・マンス 2011」の認知度にも悪影響を及ぼす。より早い段階で計画的に情報発信を行っていくことが求められる。

また、実施者と事務局との役割分担が不明確であるとの意見もあった。「ベップ・アート・マンス」は、市民の日常的な文化芸術活動を活性化するという趣旨から、参加を希望する市民らがプログラムを主体的に企画・実施し、それに対して事務局が会場提供、広報、受付、チケット販売面などでサポートを行う枠組みを取っている。この点が、事務局がアーティストを招聘して展示を行う「混浴温泉世界」との大きな違いである。但し、事務局によるサポート業務の中には、実施までの企画構築のサポートも含まれる。しかしながら、具体的にどこまでサポートしてもらえるかが不分明であったため、実際にサポートを依頼する実施者は少なかった。今後は、事務局がサポートできる業務範囲を具体的に実施者に伝えていく必要があろう。来期は、今回以上に業務の繁忙度が増すことが確実視されるため、実施に関して事務局スタッフが蓄積した「暗黙知」を、プログラム応募要領などの中に「形式知」として明記していくことが、効率的・効果的な事務局運営に役立つものと考える。

事務局の内部体制については、総務・広報・企画など担当者が分かれ、実施者が誰に相談すればよいか分かりにくいとの意見も寄せられた。このため、スタッフ間の役割分担の明確化や情報共有を図ることが必要である。実施者の立場からは、プログラム毎に担当者を割り振るワンストップサービスの導入がベストであるが、事務局の有限なリソースの中で実行可能か否かは慎重に検討すべきであろう。

広報業務については、「ベップ・アート・マンス 2011」のパンフレットに関する意見が寄せられた。風呂場のタイルを模したデザインはカラフルで目立つが、装幀だけでは何の催しか分かりにくく、一般の方が手を伸ばしづらいとの指摘である。これは、同じデザインを採用したポスターやインフォメーションブース(別府駅構内)にも言えることである。次回の「ベップ・アート・マンス 2012」および「混浴温泉世界 2012」では、人々がより手に取りやすいパンフレット、ポスターのデザインを検討する必要がある。また、インフォメーションブースにおいても、例えば、プログラムの映像を流すなど、ブース前を通る人々の関心を惹きつける工夫が求められるだろう。

来場者が参加希望プログラムを予約する際の手段としては、WEBサイトのシステムへの入力が６割を占め、予約代行業務はネットを通じて効率的に運営されたものと受けとめられる。しかしながら、事務局での予約受付代行を希望したプログラムの総来場者のうち、実際に事務局に予約した来場者の数は14%に過ぎず、来場者サイドの事前予約に対する認識がそもそも低いといえる。多くのプログラムでは予約なしの当日参加も容易で、今回は大きな問題は生じなかったが、来場者の著増が確実な来期には、人気プログラムで定員を上回る可能性も否定できない。来場者に向けて事前予約の推奨、混雑情報の提供を行うことが重要であろう。

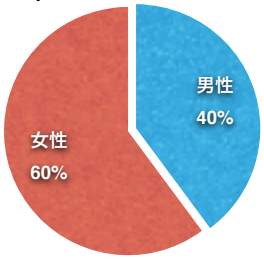
第７節　来場者アンケートについて

(1) 来場者アンケートの集計

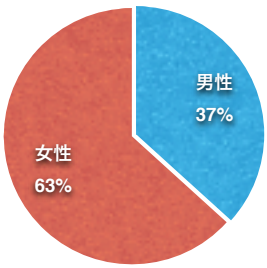
各プログラムの来場者にアンケートを実施した。合計回収枚数は1,030枚であった。
昨年度の回収枚数は、389枚であった。昨年度の結果と並べて表記する事とする。

□ 性別

2010年

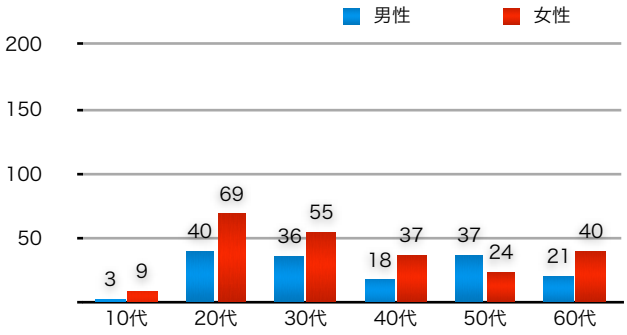


2011年

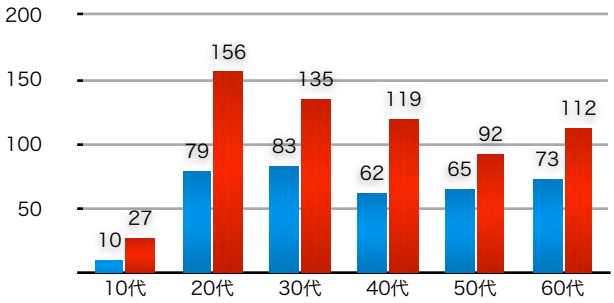


□ 年齢層

2010年



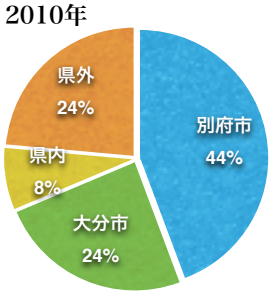
2011年



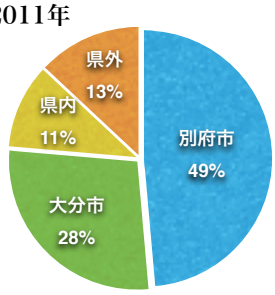
来場者の男女比は昨年度と変わらず女性の方が多いという結果がでた。またその割合も昨年度とほぼ同じであった。
また、年齢別に見ても全体的な割合はあまり変わらないが、40代男性、50代女性の参加が増えたように思われる。

□ 地域別

2010年



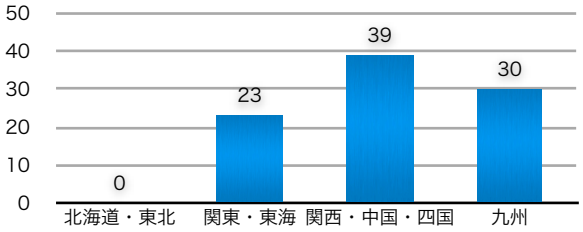
2011年



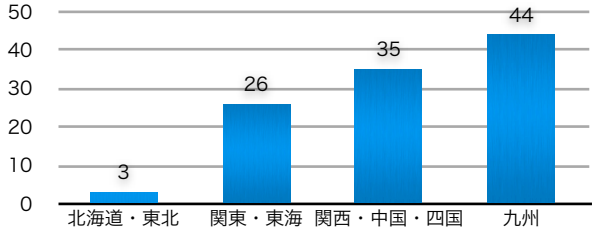
全体の来場者の割合の中で、別府市内からの来場者の割合が約半分を占めるという結果は昨年度と同じであった。
大分県内からの来場者が増え、県外からの来場者が少し減った、という結果がでた。

□ 県外来場者の内訳

2010年

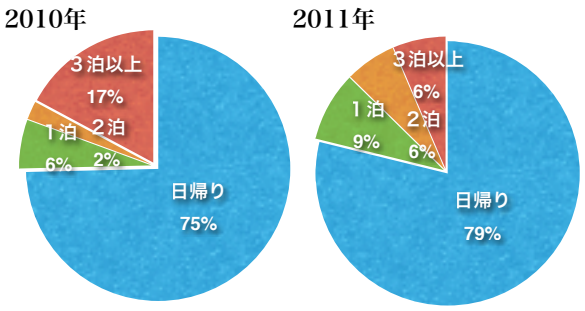


2011年



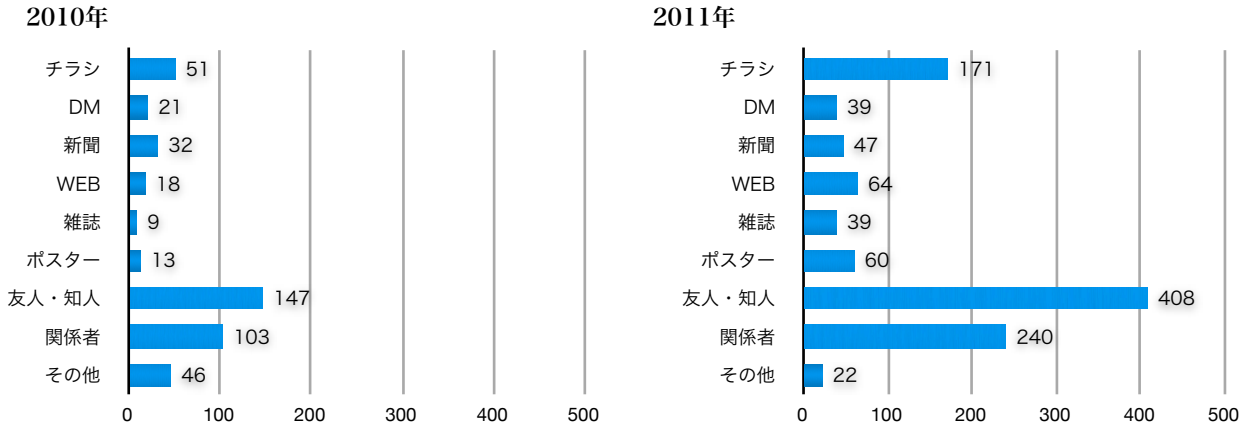
県外来場者の割合では、九州からの来場者が一番多かった(特に福岡からの来場者)。ついで関西、関東となった。

□ 滞在日数



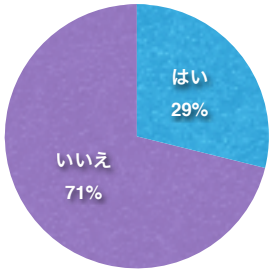
今年度は、日帰り客が昨年より増え、８割となっている。また昨年と比較すると、３泊以上の長期滞在者が減少した。

□ 催しを知った経緯



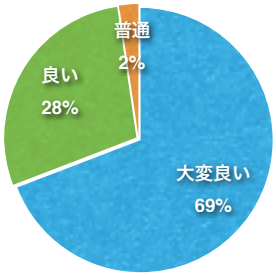
全体の割合は、ほとんど同じ割合となった。昨年と同様に人を介した広報が一番集客に繋がっている。

□ 「ベップ・アート・マンス」は今年で２回目を迎えます。昨年のプログラムにも参加されましたか？



今年度は昨年度に比べ集客数が約３倍になった為、今年からの参加が約７割というのは納得である。今年から参加してくださった来場者が来年もまた参加してくれる事を期待する。

□ このような取り組みをどのように思われますか?

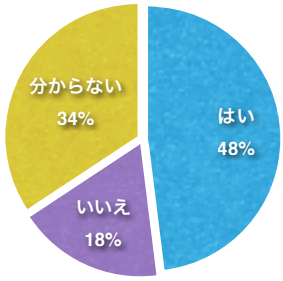


・普段観ることがない、「良いもの」が観られるので良い。
・身近にアートや企画に参加できる場があって良い。
・別府の活性化になるし、心が豊かになる。 みんなが幸せになれる。
・市外の方に多く参加してもらい、文化を広めてくれて嬉しい。
・世界一の温泉地、湯の町「別府」のアピールになる。
・秋は公民館や学校の文化祭が通常だが、町全体で取りくんでいるのが楽しい。
・別府市や市民はアートに無関心だと思うので、このような活動は良い。
・温泉施設と協同して、観光客の身体と心を癒せるような取り組みになる事を期待したい。
・いろんなアーティストの方々の作品を、温泉めぐりのように楽しめてとても面白い。
・６年前まで別府に住んでいたが、このようなイベントが当時はなく、今がうらやましい。
・普段通り過ぎていた商店に入る気になり、町を愛する事ができる。

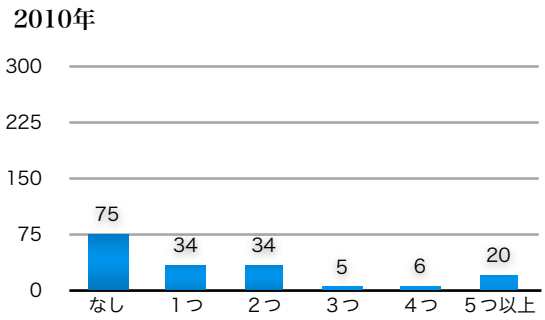
・「混浴温泉世界」と勘違いして、少しがっかりした。
・パンフレットの字が小さく、読みたいと思わない。もっと広報を工夫してほしい。
・一部で盛り上がっているだけで、地元の人に周知されていない。

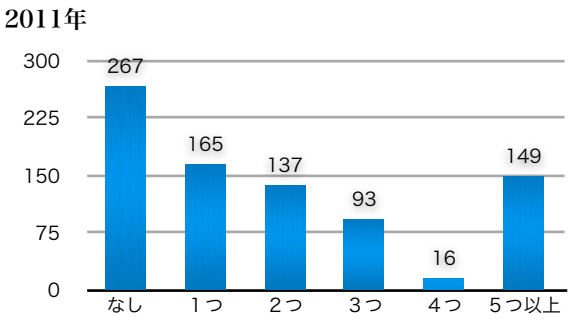
□ **来年は実施者として参加したいと思われますか?**

・詩、童話などを書くので、別府の物語を書いて別府に貢献したい。
・自宅で絵画を飾っているので、皆さまに観てほしい。



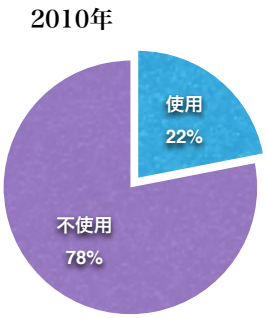
□ **複数のプログラムへの参加**

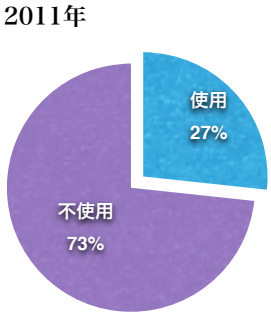




□ **「BP」の使用**

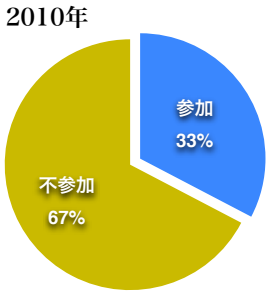
クーポン型金券「BP」の使用の割合は、昨年と変わらず約3/4の来場者が使用していない事になるが、「2011年」のグラフを見て分かる通り、プログラム参加への使用が入っていないので、今年度の使用率は、この結果よりも使用している来場者が多い事が予想される。

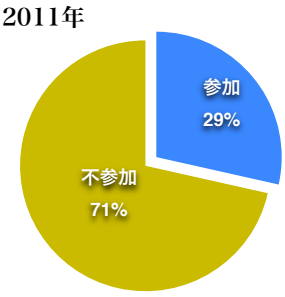




□ **別府現代芸術フェスティバル2009「混浴温泉世界」には参加されましたか?**

「混浴温泉世界 2009」への参加率は、昨年度より減少し、約７割の来場者が参加していないと答えた。これは、当事業への来場者が「混浴温泉世界 2009」とは違い、別府市民が多かった事が原因として考えられる。来年度は、「ベップ・アート・マンス」へ参加した来場者が「混浴温泉世界2012」にも参加してくれる事を期待する。





(2)　集計結果からの検証

①地域への浸透

以上では、来場者アンケートの集計結果を主に構成比で紹介したが、全プログラムの来場者数総計が３倍(2010年3,930名→2011年11,751名)になったことを踏まえると、幾つかの結果については、実数で推移を見た方が実態を理解しやすいと考える。具体的には、以下の試算表を参照されたい。

「ベップ・アート・マンス」来場者の動向(試算)

		2010年	2011年	2011/2010
	単　位	名	名	倍
地域別	別府市	1,729	5,758	3.3
	大分市	943	3,290	3.5
	県内	314	1,293	4.1
	県外	943	1,528	1.6
滞在日数	日帰	2,948	9,283	3.1
	1泊	236	1,058	4.5
	2泊	79	705	9.0
	3泊以上	668	705	1.1

(備考)集客数総計、来場者アンケートに基づき試算

この試算表を適宜引用しつつ、前年の「ベップ・アート・マンス 2010」との対比を中心に来場者アンケートの検証を試みる。まず、来場者に占める女性の割合は約６割と安定して推移している(『混浴温泉世界 2009』でも６割)。一方、年齢別に見ると、20～30代の割合は2010年51%、2011年45%となっている。「混浴温泉世界 2009」ではこの比率が７割であったのに対して、40代以上の参加割合が徐々に増加している。「混浴温泉世界 2009」が広域から誘客する現代アート中心の芸術祭であったのに対して、「ベップ・アート・マンス」が市民参加型の文化月間であることを踏まえれば、来場者の世代の広がりは望ましい傾向といえよう。

来場者の居住地については、試算表で実数をご覧いただきたい。別府市、大分市、県内、県外のいずれも人数自体は増加している。特に、県内、大分市、別府市、県外の順に伸びが大きい点は、「ベップ・アート・マンス」が県内で徐々に広く受け容れられつつある証左といえる。

続けて滞在日数を見ると、３泊以上の長期滞在者は1.1倍と頭打ちになる一方で、２泊、１泊、日帰の増加が著しいが、これも地域密着型イベントという性格上、自然な趨勢と考えられる。

今回の来場者のうち、「混浴温泉世界 2009」参加者、「ベップ・アート・マンス 2010」参加者の構成比はいずれも3割程度であるが、この数字はむしろ、別府における取り組みが新たな客層を開拓しつつあると前向きに評価したい。

②プログラムの満足度

複数プログラムへの参加(当該プログラム以外に幾つのプログラムに参加するか)について加重平均(５つ以上は５として計算)を取ると、2010年の1.4プログラムに対して、2011年は1.8プログラムとなり、提供プログラム数の増加によって来場者の選択肢が増えている姿が垣間見える。

こうした提供プログラムの増加も与ってか、「ベップ・アート・マンス 2011」への満足度(『大変良い』＋『良い』の割合)は97%と高い水準になっている。

③「見る側」から「作る側」へ

「ベップ・アート・マンス」に参加した実施者には、文化芸術を専門としないアマチュアの団体・個人が多く含まれている。2010年の事業報告書に記したように、「ベップ・アート・マンス」は、文化芸術を「見る側」と「作る側」の境界を取り払う試みであった。こうした観点から、来場者アンケートにおいて「来年は実施者として参加したいか？」という質問に対して、約半数の来場者が「はい」と答えたことは非常に心強い結果といえる。

④課題

今回の「ベップ・アート・マンス 2011」では実施者、来場者とも増加し、世代的、地域的にも別府を中心に大分県内に徐々に広がりを見せていることが明らかとなった。その一方で、2012年は、こうした地域密着型で幅広い世代をメインターゲットにした「ベップ・アート・マンス 2012」と、若い世代の女性を中心に広域から集客する「混浴温泉世界 2012」が同時開催されることとなる。異なる層のターゲットとした２つの取り組みを同時進行させるうえでは、各層に向けた的確な情報発信が不可欠となる。さらに、今回のアンケートから明らかになったように、「ベップ・アート・マンス」には、潜在的な実施希望者が存在しており、次回はさらにプログラム数が増加することも想定される。このため、事務局のサポート機能の充実、効率化に努め、２つの芸術祭を円滑に運営することが求められる。

第８節　開催による事業評価

(1) 事業評価の手法について

「ベップ・アート・マンス 2011」の事業評価は、当事業報告書の第２節から第７節までに示した各種アンケートの集計結果や、実施者・来場者の意見などをベースに行う。その際の評価手法としては、当実行委員会が「平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業」の委託を受ける際に定めた「バランス・スコアカード」を採用し、そこに掲げたターゲット(成果指標)を基準に評価を行うものとする。

「バランス・スコアカード(Balanced Scorecard、以下BSC)」は、キャプランとノートンが考案した企業の業績評価・経営管理システムである。民間企業の業績評価では伝統的に、損益財政という「財務の視点」が重視されていたのに対して、キャプラン＆ノートンは、この「財務の視点」に加えて「顧客の視点」「業務プロセスの視点」「成長と学習の視点」も併せて総合的に業績評価を行うことが重要だと説いた。そして、組織の業績を総合的に見るこうした手法は、利益追求を目的としない公的組織の経営や評価にも役立つのではないかとの考え方から、内外の自治体や公的機関でも検討・導入がなされた経緯がある。

「平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業」の評価対象は、厳密には「組織」ではなく単年度の「事業」である。しかしながら、当事業の主催者である別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会は、文化芸術による別府の地域再生という公的なミッションを掲げ、別府の中心市街地を中心に、さまざまな事業を持続的に展開している「組織」である。こうした観点から、当事業の評価手法としてBSCを導入することとした。

当モデル事業のBSCは、次項表1「『平成23年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業』のバランススコアカード(以下、表1)」の通りである。表1では「財務」「顧客」「業務プロセス」「成長と学習」からなるBSCの４視点を、より実態に合わせて「財政」「ステークホールダー」「マネジメント」「創造と学習」と読み換え、さらに５番目の視点として「地域再生の視点」を冒頭に導入した。それぞれの視点の意味合いについては各視点の評価を行う際に説明する。

表1 「平成23年度 文化庁文化芸術創造都市モデル事業」のバランス・スコアカード(BSC)

事業成果の評価・分析のためのフレームワーク				
バランス・スコアカード（要約・一部省略）				
戦略マップ （戦略目標間の因果関係）	戦略目標	重要成功要因	業績評価指標	ターゲット （成果指標）
地域再生の視点：別府における諸課題の解決	交流人口の増大 中心市街地の回遊性の改善 地域マネジメント人材育成 別府の新しい魅力創出	市民参加による別府独自の芸術祭の確立（各種事業の成功）	アートマンス入場者数	のべ5000名以上
			シンポジウム入場者数	のべ500名以上
			アワード 鑑賞者数	のべ1600以上
			アートマンス 参加プログラムの質	アンケートを通じた評価（注）
財政の視点：財政基盤の確立	チケット収入の増大	ベップ・アート・マンスの入場チケット（BP）の販売枚数増	販売枚数	2500枚
	協賛金・各種助成金の獲得	認知度の向上およびファンド・レイジング能力の向上	件数および獲得金額	50%増
ステークホールダーの視点：「観光地型・文化芸術創造都市」プラットフォームの形成	市民・学生ボランティア組織の強化	認知度の向上、文化芸術に対する関心・理解の向上	ボランティア参加人数	のべ200名（アートマンス期間中）
	他の自治体、企業・団体との連携強化	認知度の向上と信頼関係の構築	訪問件数	50件／年
	文化芸術団体との連携強化	認知度の向上と信頼関係の構築	他団体主催イベントへの視察への参加	20団体／年
マネジメントの視点： 実行体制の確立強化	実行委員会体制の強化	構成メンバーの役割分担の明確化とその実行	実行委出席率	常に８割以上
	事務局体制の強化	スケジュール遵守／業務遂行の迅速化と質の向上	業務の質	アンケートを通じた評価（注）
創造と学習の視点：文化芸術のもつ創造性の寄与	ベップユケムリ大学の充実強化	platformに対する認知度向上、講座内容の充実	開催回数	35回／年
			参加者数	のべ700名以上
	ベップ・アートマンス2011の充実強化	認知度向上、事務局との信頼関係の構築	参加団体・個人数	40団体・個人
			プログラム数	60企画以上

「平成23年度 文化庁文化芸術創造都市モデル事業」提出資料

但し、このBSCは、実行委員会が今年度に主催・協力する事業の全てを網羅している。このうち、「ベップ・アート・マンス 2011」のみを対象にした評価項目は赤色で表示した項目であり、他事業も一部関係するが主に「ベップ・アート・マンス 2011」で 評価できる項目が青色で表示した項目である。

当事業報告書は「ベップ・アート・マンス 2011」を対象とするため、以下では「ベップ・アート・マンス 2011」に関連する項目(赤・青で表示した項目)に絞って成果数値を示した次頁の表2「『ベップ・アート・マンス 2011』のバランススコアカード(以下、表2)」に基づいて評価を行う。

(2) 事業評価について

表2 「ベップ・アート・マンス 2011」のバランス・スコアカード(BSC)

戦略マップ (戦略目標間の因果関係)	業績評価指標	2010年 実績	2011年ターゲット (成果指標)	2011年 結果数値
地域再生の視点：別府における諸課題の解決	ベップ・アート・マンス入場者数	のべ3,930名	のべ5,000名以上	のべ11,751名
	シンポジウム入場者数	のべ310名　※注1	のべ500名以上	のべ375名
	アワード鑑賞者数 ※注2	のべ615名	のべ1,600以上	のべ871名
	ベップ・アート・マンス参加プログラムの質	満足度　※注3 来場者　データ無し 実施者100％	アンケートを通じた評価	満足度　※注3 来場者97％ 実施者100％
財政の視点：財政基盤の確立	販売枚数	飲食店使用枚数 1,653 BP 全体販売枚数 2,760 BP	2,500 BP ※注4	飲食店使用枚数 3,047 BP 全体販売枚数 13,656 BP
ステークホールダーの視点：「観光地型・文化芸術創造都市」プラットフォームの形成	ボランティア参加人数	のべ131名	のべ200名 (ベップ・アート・マンス期間中)	のべ206名　※注5
マネジメントの視点：実行体制の確立強化	実行委出席率	平均約４割	常に８割以上	平均約５割　※注6
	業務の質	事務局業務への満足度75％　※注7	アンケートを通じた評価	事務局業務への満足度80％　※注7
創造と学習の視点：文化芸術のもつ創造性の寄与	参加団体・個人数	27団体・個人	40団体・個人	57団体・個人
	プログラム数	43企画	60企画以上	87企画

「平成23年度 文化庁文化芸術創造都市モデル事業」提出資料

※注１) 2010年の「混浴温泉世界シンポジウム 2010」入場者数には、11月4日開催の別府ツアー参加者数を含まない。
※注２)「ベップ・アート･アワード 2011」は、 NPO法人 BEPPU PROJECTの主催事業である。「ベップ・アート・マンス 2011」は多様な実施者・実施プログラムからなるが、中には集客力の小さいものもある。このため、一定期間継続的に集客を得ることのできる展覧会をまちなかで同時開催することで、他のプログラムへの参加を促すことを期待して、アワードの来場者数を業績評価指標に含めた。
※注３）来場者アンケート、実施者アンケートでそれぞれ、「ベップ・アート・マンス 2011」の取り組みを「大変良い」＋「良い」とした回答の割合。
※注４）「BP」販売枚数のターゲットは、前年の「BP」の飲食店での使用枚数1,653 BP×1.5倍＝2,500 BPとして設定。
※注５）「ベップ・アート・マンス 2011」でのボランティアの集計は、会期中の特設インフォメーションセンター(38日間×2名)、「ベップ・アート・アワード 2011」の展覧会ボランティア(会期中50名)、各プログラムでの当日ボランティアの数の合計で集計した。
※注６）2011年６月から11月までに開催した全４回の実行委員会の出席率の平均値を記入。なお、委任状提出によるみなし出席は算入していない。
※注７）実施者アンケートで、事務局業務を「大変良い」＋「良い」とした回答の割合。

上に掲げた「ベップ・アート・マンス」のBSCのうち、赤く表示した部分が結果数値である。なお、上表では、戦略目標、重要成功要因の記載を省略するとともに、各業績評価指標に関する2010年の実績値を付記している。

①「創造と学習の視点」

「創造と学習の視点」は、「ベップ・アート・マンス」の実施者となった市民らが、文化芸術に関わる自らの創造性をいかに高めることができたかを見るものである。こうした学習を通じて、彼らが地域における他の諸課題に対しても創造的な解決を行っていくことが期待される。このように「創造と学習」の視点は、すぐれて未来志向、成長志向の視点といえる。

「ベップ・アート・マンス」は、より多くの市民が参加しやすい仕組みを作ることを最大の目標としている。すなわち、市民がアートの鑑賞者に止まらず文化芸術活動の表現者・担い手の一員として参画することを通じて、自らの創造性を発揮・拡張させることが目指されている。それと同時に、大勢の来訪者を広域から迎える「混浴温泉世界 2012」に向けて、市民らが来訪者をもてなす立場として成長を遂げることが期待される。すなわち、「ベップ・アート・マンス 2011」はそれ自身が別府の地域活性化を目的とした事業であるとともに、来期に予定される「混浴温泉世界 2012」を大きな成功に導くための手段としても位置づけられる。

こうした観点から、「ベップ・アート・マンス 2011」の事業評価に際しては、BSCを構成する５つの視点のうち「創造と学習の視点」が最も重要な視点といえる。このため当事業報告書では、「創造と学習の視点」の評価を皮切りに、「マネジメント」「ステークホールダー」「財政の視点」を順次概観したうえで、最終目的である「地域再生の視点」の評価を行うこととした。

「創造と学習の視点」に関するターゲットとしては、参加団体・個人数、プログラム数を設定した。これらの指標は、2010年の実績対比で倍増し、目標値をも５割程度上回る結果となった。

来場者アンケートによれば、今回の実施者の98%は来期の「ベップ・アート・マンス 2012」にも参加したいと回答しており、持続可能な市民の文化芸術活動の場として、「ベップ・アート・マンス」が機能しはじめたことが窺える。

②「マネジメントの視点」

「マネジメントの視点」「ステークホールダーの視点」は、主に「ベップ・アート・マンス」の実施プロセスを評価するもので、事業実施のあり方に現在進行形でメスを入れていくことになる。

このうち「マネジメントの視点」では、当実行委員会による実行体制の確立強化を目指し、事務局業務が効率的・効果的に遂行されていたか否かの評価を行う。当該業務の質は実施者へのアンケートによって評価することとしている。また、実行委員の積極的参画を求める意味で、委員会出席率は常に８割以上とすることをターゲットに設定した。

アンケートの集計結果によれば、事務局業務に対する満足度は80%と高く、昨年の75%を上回るなど改善が見られた。個々の業務を見ても、広報業務代行に効果があったとする回答が増加(2010年60%→2011年86%)したほか、受付業務代行、チケット販売協力についても同様の結果(2010年50%→2011年95%)となった。

また、広報活動の展開によるメディアへの掲載件数とそれらの報道の広告換算は、2010年が61件、約1,200万円に対して2011年は91件、約7,700万円と大きく増加した。地元メディアへの掲載が中心だが、地域密着型事業である「ベップ・アート・マンス」の性格を踏まえれば、別府市内やその他の県内を重点に情報が発信されたのは望ましい結果といえる。こうしたメディアを通じた紹介は、別府の新たな魅力を広く各地に発信し、地域ブランド力の向上につながる点で、「地域再生の視点」からも重要な成果といえる。「混浴温泉世界 2012」が開催される来期には、地元メディアへの広報と同時に、全国メディアへの広報による来場者総数の底上げを戦略的に図ることが重要である。

事務局業務に係る満足度が高い一方で、委員会出席率は平均して約５割に止まった。事務局の専従スタッフと異なり、実行委員は本業のかたわら委員会に出席するため、全員の日程調整を行うことが現実的には難しかったといえる。出席率確保のための調整に手間暇をかけるよりも、「ベップ・アート・マンス 2011」開催に向けて諸課題を速やかに調整・解決していくことが優先されたため、実際の委員会運営に際しては、電話やメールも活用して委員間の意思疎通を図り、業務運営に滞りのないように努めた。

来期は「混浴温泉世界 2012」と「ベップ・アート・マンス 2012」が同時開催となり、事務局の業務負担はさらに大きくなると予想される。このため、まずは今回の事務局業務の質を維持することを心がけつつ、第６節で示した課題を中心に戦略的・重点的な改善を図っていくことが求められよう。

③「ステークホールダーの視点」

「創造と学習の視点」では実施者、「マネジメントの視点」では主催者である実行委員会の内部体制が問われたが、「ベップ・アート・マンス 2011」の実施に際しては、他にも多くのステークホールダー(関係者)の協力を得る必要がある。別府において「観光地型・文化芸術創造都市」のプラットフォームを形成するためには、多様なステークホールダーとの協力体制を確立することが不可欠であり、BSCではこのうち、ボランティア参加人数のべ200名をターゲットに設定している。

かかるターゲットに対して実績は206名となり、ほぼ目標どおりの結果となった。なお、「ベップ・アート・マンス」では通常、実施者である市民が自らプログラムを遂行するため、ボランティアは比較的少数で足りる事業構造となっている。これに比べて、市内各所で招聘アーティストによる多彩なアート・プログラムを同時展開する「混浴温泉世界」では、各会場の受付業務や事務局業務のサポートをはじめ、はるかに多数のボランティアを動員することが必要となろう。2012年の「混浴温泉世界 2012」開催に向けて、ボランティア確保のための計画的取り組みを進めていくことが重要である。

④「財政の視点」

民間の企業経営に用いるBSCでは、「財政の視点」において損益・財政面の評価などを行う。民間企業の場合、利益や良好な財務体質の確保は極めて重要な目標である。但し、企業の財務諸表は過去の損益・財政状況を示すものに過ぎず、足元の利益に過度に囚われて、「マネジメント(内部プロセス)」「ステークホールダー (顧客)の視点」に係る現在の改善活動や、「創造と学習の視点」からの未来に向けた投資を怠ると、中長期的にはむしろ利益を損なう懸念もある。このため、BSCに基づく戦略的経営では、これらの諸視点に係る指標をバランスよく見ながら、企業を上手に経営していくことが求められるが、それでも最終的に重要視されるのは、中長期的な利益の最大化という「財政の視点」である。

これに対して、「ベップ・アート・マンス」のような地域再生プロジェクトでは、主催者が儲けることが一義的な目的ではなく、地域に対するさまざまな外部効果(創造的人材の育成・誘致、まちなかのにぎわい創出、経済波及効果など、主催者に限らず地域全体が享受する効果)が最終目的となる。このため、「ベップ・アート・マンス 2011」のBSCでは、最終的な目的として、後述するような「地域再生の視点」を別立てしている。

以上のような背景から、「財政の視点」では、金銭面で把握・評価できる範囲の外部効果として、「BP」の販売枚数2,500BP(1BP＝100円)をターゲットに設定している。ちなみに「BP」は金券であって、販売枚数が増えたからといって主催者である実行委員会の利益増につながるわけではない(600円分に相当する6BPのクーポン型金券を500円で販売するためむしろ負担増になる)。それにも関わらず、実行委員会が「BP」を発行するのは、ディスカウントした金券を販売することで、有料プログラムへの来場者の参加を促すとともに、加盟店における消費も拡大させるという、地域への波及効果を目指すからである。

2,500BPという目標値は、2010年の「BP」の飲食店での使用枚数1,653BPの1.5倍として設定した。結果数値も同じ飲食店使用枚数で把握すると3,047BPと目標を2割上回る成果となる。ちなみに、今回計算した「BP」の総販売枚数ベースで2年間を比較すると、2010年2,760BP、2011年13,656BPとなり、「BP」の使用枚数は5倍に拡大している。

これは、有料プログラム参加時の「BP」使用を推奨した結果、プログラムにおける使用枚数が4倍に増えたことに起因する。それに伴って、プログラムで使い残した「BP」の飲食店・温泉施設・ショップでの使用も倍増した。来場者は通常、加盟店舗で「BP」に追加して現金を支出するため、「BP」は実際の使用枚数(3,492BP＝35万円)よりも大きな消費を誘発する。加えて、「BP」ではなく現金を使用する来場者も未だに多く(来場者の7割強)、また、来場者の2割は別府に宿泊しているが、現状、「BP」に加盟している宿泊施設はない。このため、そうした「BP」の外数となる消費も勘定に含めれば、今回の「ベップ・アート・マンス 2011」が誘発した波及効果はさらに大きいといえよう。

また、ターゲットには掲げていないものの、事務局業務が効率的に遂行されたか否かを見るうえで、「ベップ・アート・マンス 2011」の収支実績も見ておこう。このとき重視すべきは、コストをいかに節約したかではなく、少ないコストで大きな外部効果を生み出せたかという費用対効果の観点である。2011年の収入は約400万円(うち別府市負担金は100万円)で、前年比20%増となっている。これに対して、実施者は倍増、来場者は3倍増となった。「ベップ・アート・マンス」も2年目に入り、事務局業務への習熟もあって、費用対効果は大きく向上しているといえよう。

但し、2012年には「混浴温泉世界 2012」と「ベップ・アート・マンス 2012」の同時開催が予定されており、地域にもたらす効果も桁違いになる一方、事務局業務に要するコストも増加を免れない。円滑な開催に向けた財政基盤・人的資源の充実が大きな課題といえよう。

⑤「地域再生の視点」

「地域再生の視点」では、上記の4つの視点を踏まえつつ、「ベップ・アート・マンス」が別府におけるさまざまな地域課題の解決に寄与しえたかという観点に関する評価を行う。

このため、「ベップ・アート・マンス 2011」では、別府の新しい魅力の創出を通じた交流人口の増大、中心市街地の回遊性の改善を評価するターゲットとして、「ベップ・アート・マンス 2011」入場者数、「混浴温泉世界シンポジウム 2011」入場者数、「ベップ・アート・アワード 2011」鑑賞者数を掲げている。「ベップ・アート・マンス 2011」の総来場者は2010年実績の3倍、目標との対比では2倍となるなど、全体的には目標を大幅に超過達成した。

但し、「創造と学習の視点」で述べたように、「ベップ・アート・マンス」の最大の目的はアートの担い手としての市民参加を進めることにあり、来場者という受け手の数の増加を過度に高評価することは控えたい。もちろん多くの来場者を迎えることは、実施者の大きな励みとなるものであり、こうした観点から来場者の増加を喜びたいと思う。また、来場者という量に加え、「ベップ・アート・マンス 2011」の取り組みをどう思うかという質の面においても、高い評価(『大変良い』＋『良い』との回答の構成比が、来場者アンケートで97%、実施者アンケートで100%)となった。

一方で、個々のプログラムの来場者数については、目標を下回るものもあった。「混浴温泉世界シンポジウム 2011」は目標500名に対して実績375名と目標の3/4に止まった。主な要因は、当初、収容人数200名の別府ブルーバード会館での４日間開催を想定して目標値を設定したが、計画を具体的に練り込む中で、同会館で「混浴温泉世界シンポジウム 2011」期間中に開催される他プログラムにも配慮して会館での開催を１日にしたことにある。他の３日間は収容人数50名のplatform01を会場とし、両会場の集客はそれぞれ会場の大きさに見合った規模となった。特に、収容力の大きいブルーバード会館で行われた11月５日の「混浴温泉世界シンポジウム 2011」は大勢の市民でにぎわった。このように、「混浴温泉世界シンポジウム 2011」の運営自体に大きな問題はなかったものの、会場の全体的キャパシティが減った結果、500名という目標には届かなかった。今後の目標設定に際しては、「混浴温泉世界シンポジウム 」の動員力や会場選定のあり方について、より留意する必要がある。

「ベップ･アート･アワード 2011」についても、目標1,600名に対して実績は871名と約半分に止まった。今回の「ベップ･アート･アワード 2011」では、応募する若手アーティストの対象を県内から全国に拡大して大規模に行ったことから、鑑賞者数についても意欲的な目標を掲げたが、残念ながら目標には届かなかった。ちなみに、前年の「ベップ･アート･アワード 2010」の会期中来場者は615名であり、前年比では４割増となっている。但し、グランプリ受賞作家の作品１点を展示した2011年の「ベップ･アート･アワード 2011」と異なり、2010年の「ベップ･アート･アワード 2010」は会期を予選展２回(前後期で８作家の作品を展示)、グランプリ受賞展１回の計３回に分け、このうちグランプリ受賞展は「ベップ・アート・マンス 2010」の会期終了後に開催している。このように実施形態が異なるため、両年の実績を単純に比較することは難しい。しかしながら、今回の「ベップ･アート･アワード 2011」も「ベップ・アート・マンス 2011」期間中のplatformでの実施プログラムの中では最多来場者数を記録したプログラムであり、また、会期中継続して開催することで他プログラムへの参加を促す相乗効果も一定程度あったと考えられる。来期については、今回の実績を勘案したより現実的な目標設定が必要であろう。但し、来期は「混浴温泉世界 2012」との同時開催になるため、来場者の相乗効果が期待でき、また世界的アーティストとの競演となることから「ベップ･アート･アワード 2012」応募者のモチベーションも高まるものと予想される。ゆえに、実績に過度に囚われることもなく、こうしたプラス面も加味した積極的な目標設定を検討すべきであろう。

以上では、来場者数を中心に、事前に設定したターゲットを達成できたか否かを検証した。しかしながら、別府の地域課題の創造的解決への寄与という最終目的に照らせば、会期中の来場者数はあくまで短期的目標に過ぎず、中長期的には、別府における創造的人材の育成・誘致や、会期中に留まらない別府全体の交流人口の拡大こそが重要なインパクトといえる。こうした目標を短期的に評価することはたいへん難しいが、参考指標として、来場者アンケートにおいて「来年は実施者として参加したいか？」という質問に対して、約半数の来場者が「はい」と答えたことを挙げておきたい。こうした人々が将来、別府の文化芸術活動や市民活動に積極的に参画することで、最終目的である別府の創造性向上につながっていくだろう。そして彼らの存在は、今後の「ベップ・アート・マンス」を担う地域インフラともなる。彼らが実施者として参画することで「地域再生の視点」はふたたび「創造と学習の視点」へと回帰し、創造都市実現に向けた好循環が描かれることが期待される。

(3) 課題

以下では、これまでの各節や本節の検証を踏まえた今後の主な課題について改めて整理を行う。これまでも述べてきたように、来期最大の課題は、同時開催される「混浴温泉世界 2012」と「ベップ・アート・マンス 2012」を円滑に運営するために、財政基盤・人的資源の充実を図るとともに、事務局のサポート機能の充実・効率化を行うことに集約される。具体的には、次のような項目について、費用対効果に配慮しながら戦略的・重点的な取り組み検討を行うことが求められよう。

事務局運営全般

・実施者やマーケットに対して、より早い段階で計画的に情報発信を行っていく。
・実施者と事務局の役割分担を明確化し、事務局によるサポート業務の範囲を具体的に示す。
・事務局の内部体制について、スタッフ間の役割分担の明確化や情報共有を図る。
・ボランティア確保のための計画的取り組みを進める。

広報業務

・人々の関心をより惹きつけるパンフレットのデザインやインフォメーションブースのあり方を工夫する。
・同時開催される２つの芸術祭の顧客層の違いを踏まえた的確な情報発信を行う。
・「混浴温泉世界 2012」が開催される来期は、全国メディアへの広報による来場者総数の底上げを戦略的に図る。

予約受付業務

・来場者に向けて、WEBなどを通じてプログラムの事前予約の推奨、混雑情報の提供を行う。

「BP」使用

・「BP」の利用方法の周知徹底、利便性の向上(『BP』販売場所の増加など)により、さらなる普及を進める。

■第９節　次年度へ向けて

「混浴温泉世界 2009」の事業報告書では、地域との連携、財政対策、人材の確保、別府のためだけに作られた作品群の確保、地域にアートがいかに関わっていくか、そのグランドデザインの明確化などが課題として挙げられ、小規模の実験的なミニ・フェスティバルを積み重ね、その集大成として３年ごとに「混浴温泉世界」を開催するのも課題解決に取り組むための一つの手段ではないかと結んでいる。

これを受け、実行委員会の中核組織、BEPPU PROJECTでは2010年３月に「BEPPU PROJECT 2010」を開催した。これは市民との関わりの中から作品を生むことを強く意識したミニ・フェスティバルで、さらなる市民との関わりの強化を目指してクーポン型金券「BP」も試験的に導入した。また「混浴温泉世界 2009」で発表したマイケル・リン氏の作品２点も、氏の好意により継続展示されることになった(この作品は現在も公開されており、日本文教出版株式会社発行の『平成24年度版 中学校美術科教科書』に掲載される)。

同年11月には、実行委員会主催で「ベップ・アート・マンス 2010」を開催し「BP」の仕組みを深化させるとともに、市民の文化活動のためのプラットフォーム作りに取り組んだ。これは、見る側であった人々に制作者として参加してもらうことで、市民の文化芸術に対するリテラシーの向上や、地域の文化基盤の強化を図るものであった。

以上を始め、2009年以降実行委員会およびBEPPU PROJECTは、様々な課題の解決を図るべく事業を展開してきた。そして、これまでの取り組みをさらに深化させていくことを念頭にして、本事業「ベップ・アート・マンス 2011」は開催された。

クーポン型金券「BP」は「ベップ・アート・マンス 2011」開催時には加盟店が100店舗を超えた。これまでに加盟した店舗から除盟を望む声はなく、一様に継続している。これは売り上げへの影響の有無に関わらず、事業への参加意思の表れであると見て取れる。また、本年度は実施者、来場者ともに増加し、その世代や地域の幅も広がった。これは本事業が２度目を迎え、認知度が上がったことにも関係するが、さらに関わりやすい仕組みを目指し、無料またはディスカウント価格で利用できる提供会場の増加を始めとする、実施者支援の取り組みと呼びかけの強化の成果であると考える。以上から、2009年以降の事業の積み重ねが少しずつ市民に浸透し、参加意識の醸成に繋がったことが伺われる。

今後、更なる実施者・来場者および関係者の増加によって「混浴温泉世界」と「ベップ・アート・マンス」が連動し、大きな成果を上げるためには、それぞれの違いや特性を見極めながら準備を進め、様々な切り口から広く２つの事業を周知させていくことが重要になる。

本年度の関係者の増加に、BEPPU PROJECTの発行しているフリーペーパー「旅手帖 beppu」が大きな役割を果たしたことを付記しておく。これは20代～30代の女性をメインのターゲットに据えた季刊誌であるが、この事業とクーポン型金券「BP」とが連動したことで、ターゲット層に向けて町の魅力を発信するという主目的を果たすとともに、商店街や多くの市民との日常的な関係性を構築・強化することに繋がった。

これまで11月の１ヶ月間を「文化月間 ＝ アート・マンス」と定めてきた当事業だが、次年度は10月６日から12月２日までに会期を拡大する。これは、これまでの事業で得たノウハウを活かし、市民参加型のプラットフォーム事業である「ベップ・アート・マンス」と回遊型の現代アートの祭典である「混浴温泉世界」の相互が補完し合う関係を作ることを目的としている。

一方、「混浴温泉世界 2009」では財政基盤の脆弱さや事務局の経験の浅さが露見する結果となったが、2009年以降、様々な事業を通じ、事務局スタッフの人材育成に力を注いできたことで、在任スタッフの習熟には期待を寄せるが、両事業が同時に展開されることによる混乱や人員不足が懸念される。これを防ぐためにも、早期の財政基盤・人的資源の充実を図りたい。

また、本年度より「バランス・スコアカード」による事業評価を導入し、成果の指標が明確になった。この評価は今求められているものは何か、不足しているものは何かを検証し、それに適した戦略を練るための布石となるだろう。2010年に開催した「混浴温泉世界シンポジウム 2010」のなかで、総合ディレクターの芹沢高志氏は「混浴温泉世界」について「拡大するのではなく、深くしていきたい」と発言した。「混浴温泉世界 2012」は、８つのプロジェクトに絞って展開することが決定している。これは、別府のためだけに作られた作品を発表する「混浴温泉世界」において、一つ一つの作品をより丁寧に作り上げ、深く掘り下げることを目的とする。無数の作品群が、大挙する来場客を迎える巨大なアートフェスティバルではなく、より別府らしい、作り手の顔が見えるものを目指したい。

以上で述べてきた、2009年以降の取り組みや計画を「混浴温泉世界 2012」として結実させることで、我々はまた新たな課題を見つけることになるだろう。「ベップ・アート・マンス」や「混浴温泉世界」はその過程や検証が重要であり、その末に新たな事業を生み出すことにこそ大きな意味がある。こうした取り組みを持続的に積み重ね、地域に根ざした文化基盤を創出することが、地域を再生する力となるだろう。2012年の両事業の同時開催を目前に控えた実行委員会が目指しているものは「全ての参加者が満足する、質の高い丁寧なサービスを提供できる世界で最も幸福な芸術祭」を、ここ別府で実現することである。これまで積み重ねてきた事業の成果の全てを2012年に繋げ、別府市ならではの芸術祭のあり方を具現化していきたい。